

# 官報

號外 昭和十二年三月五日

## ○第七十回 衆議院議事速記録第十六號

昭和十二年三月四日(木曜日)

午後一時十九分開議

議事日程 第十七號

昭和十二年三月四日

午後一時開議

第一 輸出補償法中改正法律案 (政府提出)

第二 漁船保険法案(政府提出) 第一讀會

第三 漁船再保險特別會計法案 (政府提出)

第四 森林火災保険法案 (政府提出) 第一讀會

第五 森林火災保険特別會計法案 (政府提出) 第一讀會

第六 恩給法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第七 恩給金庫法案(政府提出) 第一讀會

第八 會計検査院法中改正法律案(政府提出)

第九 國民健康保険法案(政府提出) 第一讀會

第十 保健所法案(政府提出) 第一讀會

第十一 結核豫防法中改正法律案(政府提出)

第十二 帝國ノ滿洲國ニ於ケル治外法權ノ撤廃及南滿洲鐵道附屬地行政權ノ調整乃至移讓ニ伴ヒ退官退職シタル者等ニ交付スル公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

第十三 朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出)

第十四 朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)

第十五 小運送業法案(政府提出)

第十六 日本通運株式會社法案(政府提出)

第十七 横太市制案(政府提出、貴族院送付)

第十八 肥料取締法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第十九 酒造組合法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第二十 日本無線電信株式會社法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第二十一 特許法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第二十二 商標法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第二十三 不正競争防止法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第二十五 大正十年法律第二百二號中改正法律案(定年ニ因ル退職判事檢事院送付)

第二十六 商法中改正法律案(政府提出)

第十三 朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出)

第十四 朝鮮鐵道用品資金會計法中改正法律案(政府提出)

第十五 小運送業法案(政府提出)

第十六 日本通運株式會社法案(政府提出)

第十七 横太市制案(政府提出、貴族院送付)

第十八 肥料取締法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第十九 酒造組合法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第二十 日本無線電信株式會社法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第二十一 特許法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第二十二 商標法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第二十三 不正競争防止法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第二十四 裁判所構成法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第二十五 大正十年法律第二百二號中改正法律案(定年ニ因ル退職判事檢事院送付)

第二十六 商法中改正法律案(政府提出)

○議長(富田幸次郎君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

(書記官朗讀)

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

貿易組合法案

工業組合法中改正法律案

(以上三月四日提出)

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

一議員ノ異動左ノ如シ

レタリ

愛知縣第四區選出議員武富濟君死去セラ

一昨三日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ如シ

商法中改正法律案

兵役法中改正法律案

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

昭和十二年度歲入歲出總豫算案竝昭和十二年度各特別會計歲入歲出豫算案中修正

(以上三月三日提出)

小運送業法案

日本通運株式會社法案

(以上三月一日提出)

昭和十二年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツ

ル爲公債發行ニ關スル法律案

昭和七年法律第一號中改正法律案(滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)

揮發油及アルコール混用法案

(以上三月三日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

交通機關調整法案

提出者

田中 好君 綾部健太郎君

愛野時一郎君 富田 等平君

石坂 豊一君 加藤久米四郎君

鵜澤 宇八君 手代木隆吉君

樺太ニ衆議院議員選舉法施行ニ關スル法律案  
提出者  
石坂 豊一君 加藤久米四郎君  
鵜澤 宇八君 手代木隆吉君  
青木雷三郎君  
(以上三月二日提出)

第二十七 兵役法中改正法律案(政府提出)  
北海道舊土人保護法中改正  
法律案(政府提出)

第一讀會  
第一讀會ノ續(委員長報告)

第三種郵便物認可

中村不二男君	中村 又一君	長崎佐世保間縣道ヲ軍事用國道ニ編入ニ 關スル建議案	豫算委員 中村嘉壽君 (西岡竹次郎君 補闕)
池田 秀雄君	後藤寺上山田間鐵道敷設ニ關スル建議案	提出者 倉成庄八郎君 佐保 畢雄君	提出者 倉成庄八郎君 佐保 畢雄君
勝 正憲君	田島勝太郎君	末松偕一郎君 高野 喜六君	西岡竹次郎君
田島勝太郎君	片山秀太郎君	末松偕一郎君 高野 喜六君	長崎本線ノ復線及長崎門司間鐵道電化ニ 關スル建議案
喜々津浦上間鐵道敷設速成ニ關スル建議案	末次虎太郎君	石井徳久次君 田尻 生五君	提出者 倉成庄八郎君 佐保 畢雄君
倉成庄八郎君	川崎末五郎君	（以上三月二日提出）	對馬島振興ニ關スル建議案
西岡竹次郎君	池本甚四郎君	長崎上海間航路改善ニ關スル建議案	提出者 西岡竹次郎君
長崎薬學専門學校設置ニ關スル建議案	倉成庄八郎君	倉成庄八郎君 佐保 畢雄君	倉成庄八郎君 佐保 畢雄君
提出者 西岡竹次郎君	倉成庄八郎君	（以上三月二日提出）	西岡竹次郎君
倉成庄八郎君	佐保 畢雄君	倉成庄八郎君 佐保 畢雄君	對馬島振興ニ關スル建議案
西岡竹次郎君	佐保 畢雄君	（以上三月二日提出）	提出者 西岡竹次郎君
動車運輸ニ關スル建議案	倉成庄八郎君	佐保 畢雄君	帝國在郷軍人會國庫補助金増額ニ關スル 建議案
長崎市ヲ起點トスル彼杵半島一周國營自	西岡竹次郎君	西岡竹次郎君	提出者 西岡竹次郎君
動車運輸ニ關スル建議案	倉成庄八郎君	佐保 畢雄君	倉成庄八郎君 佐保 �畢雄君
長崎市ヲ起點トスル彼杵半島一周國營自	西岡竹次郎君	佐保 畢雄君	（以上三月二日提出）
動車運輸ニ關スル建議案	倉成庄八郎君	佐保 畢雄君	農地法案(政府提出)委員
長崎市鐵道運輸事務所及保線事務所新	西岡竹次郎君	佐保 畢雄君	委員長 小西 和君
設ニ關スル建議案	西岡竹次郎君	佐保 畢雄君	理事
提出者 西岡竹次郎君	倉成庄八郎君	佐保 畢雄君	小西 和君
長崎中央電信局設置ニ關スル建議案	西岡竹次郎君	佐保 畢雄君	高橋 守平君 津原 武君
提出者 西岡竹次郎君	倉成庄八郎君	佐保 畢雄君	（以上三月四日提出）
第一去二日林内閣總理大臣ヨリ左ノ通發令ア リタル旨ノ通牒ヲ受領セリ	西岡竹次郎君	倉成庄八郎君	宮本雄一郎君 助川啓四郎君
第七十回帝國議會大藏省所管事務政府委	西岡竹次郎君	倉成庄八郎君	山口忠五郎君 島田七郎右衛門君
員被仰付	西岡竹次郎君	倉成庄八郎君	（以上三月四日提出）
第一去二十八日部長補闕選舉ノ結果左ノ如シ	西岡竹次郎君	倉成庄八郎君	高橋 守平君 津原 武君
第四部 第二部選出	西岡竹次郎君	倉成庄八郎君	（以上三月四日提出）
豫算委員 平川松太郎君 (宮澤胤勇君 補闕)	西岡竹次郎君	倉成庄八郎君	（以上三月四日提出）
マス、仍テ許可スルニ決シマシタ、其部ノ	西岡竹次郎君	倉成庄八郎君	（以上三月四日提出）

○議長(富田幸次郎君) 是ヨリ會議ヲ開キ  
マス、御諮詢致シマス、第七部選出豫算委  
員角源泉君常任委員辭任ノ申出ガアリマス、  
之ヲ許可スルニ御異議ハアリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ)  
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ  
レ、又懲罰委員長ニ當選セラル、等、國家  
憲政ノ爲メ奮勵努力セラレツ、アリマシタ

諸君ハ速ニ補闕選舉ヲ行ヒ、御届アランコ  
トヲ望ミマス  
シタコトヘ、洵ニ痛惜哀悼ノ至ニ堪ヘマセ  
ス、此際小林鑑君ヨリ發言ヲ求メラレテ居  
リマス、之ヲ許可致シマス——小林鑑君  
〔小林鑑君登壇〕

○小林鑑君 只今御報告ニ相成リマシタル  
故武富濟君ニ對シ、院議ヲ以テ弔詞ヲ贈呈  
致シ、其弔詞ハ之ヲ議長ニ一任スルノ動議  
ヲ提出致シマス、諸君、此際私ハ諸君ノ御  
許シヲ得マシテ、議員一同ヲ代表シ、故武富  
濟君ニ對シ哀悼ノ微意ヲ表シタイト存ズル  
ノデアリマス(拍手)

故武富濟君ハ明治十二年四月愛知縣碧海  
郡刈谷町ニ於テ生レラレ、長ジテ東京帝國  
大學法科大學ニ入學セラレ、明治三十七年  
七月同大學ヲ卒業セラル、ヤ、司法官試補  
ニ補セラレ、次イデ検事ニ任ゼラレ、千葉  
地方裁判所檢事、東京地方裁判所檢事等ニ  
歴任セラレタノデアリマス、在職中彼ノ日  
糖事件若クハ幸徳等ノ大逆事件ニ付檢察ノ  
衝ニ當リ、其敏腕ヲ揮ハレタルコトハ世人  
ノ能ク知ル所デアリマス、大正元年官界ヲ  
去ツテ辯護士トナラレ、翌二年ニハ東京辯護  
士會常議員會議長ニ舉げラレ、甘粕憲兵大  
尉ノ辯護人ニ官選セラレタル等、君ガ法曹  
ニ於テ人權擁護ノ爲ニ盡サレタル功績ハ  
洵ニ甚大ナルモノガアリマス(拍手)

斯くて大正十三年五月第十五回總選舉ニ  
際シ、郷里ナル愛知縣ヨリ衆望ヲ負ウテ當  
選セラレテ、衆議院議員トナリ、爾來前後  
通ジテ五回當選セラレ、長ク本院ニ其議席  
ヲ占メラレタノデアリマス、其間折務參與  
官トシテ拓務行政ニ參與セラレ、阿片委員  
會委員及び選舉制度調査會委員ヲ仰付ケラ  
レ、又懲罰委員長ニ當選セラル、等、國家

コトハ、諸君御承知ノ通リデゴザイマス(拍手)

君ハ資性豪放ニシテ義氣ニ富ミ、私ヲ捨テ、公ニ報ズルノ士デアラマシタ、近來益々練達堪能ノ域ニ入ラレ、世上モ亦君ニ俟ツモノ極メテ多カリシニ、昨夏以來一豎ノ冒ス所トナリ、吾々ハ其快憲ノ一日モ速力ナランコトヲ祈リツ、アリマシタノニ、今溢焉トシテ幽明界ヲ異ニセラレタルコトハ、洵ニ痛惜哀悼ニ堪ヘザル次第アリマス、茲ニ謹シテ衷心ヨリ哀悼ノ微意ヲ表スル次第アリマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 小林君提出ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ハ可決セラレマシタ、茲ニ議長ノ手許ニ於テ起草シタル弔詞ヲ朗讀致シマス

衆議院ハ議員正五位勳三等武富濟君ノ長逝ヲ哀悼シ恭シク弔詞ヲ呈ス

(拍手起ル)

○議長(富田幸次郎君) 此弔詞ノ贈呈方ハ議長ニ於テ取計ヒマス

○松永東君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第二十八ヲ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君提出ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第二十八、北海道舊土人保護法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ラ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長川島正次郎君

## 第二十八 北海道舊土人保護法中改正 法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致

候此段及報告候也

昭和十二年三月二日

委員長 川島正次郎

衆議院議長富田幸次郎殿

〔川島正次郎君登壇〕

○川島正次郎君 只今上程セラレマシタ北

海道舊土人保護法中改正法律案ノ委員會ニ於キマスル審議ノ經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス、委員會ハ去ル二月二十六日以來三日間ニ亘リマシテ慎重審議ヲ致シマシタ、熱心ニシテ而モ適切ナル質問應答竝ニ意見ノ交換ガアリマシタ、質問ヲ終了致シマシテ討

論ニ入りマシテ、民政黨ノ手代木君竝ニ政友會ノ南條君ヨリ、何レモ本案ニ賛成ノ意味ノ御演説ガアリマシテ、採決ノ結果、委員會ハ大多數ヲ以テ可決ヲ致シマシタ、此段御報告ヲ申上ゲマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 討論ノ通告ガアリ

マス——淺川浩君

(淺川浩君登壇)

○淺川浩君 只今ノ委員長ノ報告ニ對シマシテ賛成ノ意思ヲ表シタイト思フノデアリマス、御承知ノ通リ「アイヌ」民族、文教ナカリシ、原始的ナル、經濟知識ナカリシ同種族ヘ、最初海岸ニ於テ撈漁ニ依リ生活ヲ營ミ、自然河川ヲ週上致シマシテ、奥部陸地ニ入シテ生活ヲナシ居ル其狀態ハ、恰モ太古時代ノ生活狀態其儘デアリマス、然ルニ教育ノ方面ニ於キマシテハ、特殊ノ土人ノミシテ贊成ノ意思ヲ表シタノデアリマス、然ルニ教育ノ方面ニ於キマシテハ、特殊ノ土人ノミシタガ、最初土人ノミノ學校デアリマシテハ、競争心ナキ爲ニ教育ノ成績ヲ擧グルコトヲ得ズ、大正八年ニ至リマシテ學制ヲ變ヘテ、内地ヨリ移住セル子弟ト共ニ自由

ノ集團的部落ヲ作ラシムル爲ニ、又一面ニノ移民ノ「シヨック」ヲ受ケマスルノデ、各地ノ報告ヲ求メマス——委員長川島正次郎君

ハ地方長官ハ之ニ勸農ノ趣旨ヲ以チマシテ、土地ヲ附興スペク、明治二十五年ニ於キマシテ、舊土人給與豫定地ナルモノヲ所々ニ

作リマシテ、其豫定地ノ附近ニ集團的住居ヲ營マシタモノデアリマスルガ、前段申シマスルヤウニ、海岸カラ段々遡上致シマシタ

ノデスガ、北海道ノ高原ト稱シマスル、旭川地方ノ附近ニ於キマスル一ツノ實例ニ付テ申上ゲマスレバ、明治三十二年土人保護法

ガ制定セラレマシテ、旭川市附近ニ於キマシテハ、舊土人ニ與フル豫定地ト致シマシテ、一百五十町歩ノ給與豫定地ヲ定メテ居尾タノデアリマス、而シテ土人ニハ先づ一町

歩ノ開拓地ヲ與ヘマシテ、其他ノモノハ道廳長官ガ之ヲ管理ヲ致シ、サウシテ旭川市ガ管理ノ代務ヲ致シマシテ、此土人ニ一町

歩ヅツ割當テマシタ所ノ殘地ノ管理ハ旭川市ガ之ヲ行ヒ、之ヲ轉貸致シマシテ、此收益ヲ以テ一般ノ土人ニ對スル行政ノ費用ニ充テ居尾タノデアリマス、然ルニ一般移民ノ增加スルニ從ヒマシテ、土人ノ生活ノ上ニ「ショック」ヲ與フルヤウナ狀況ガ差起リマシテ、旭川市ハ是等ノ土人ニ對シテ一定ノ家屋ヲ造り、サウシテ衛生上ノ設備、其他授産上ノ設備、農事指導ノ設備ト云フヤウナモノヲ致シマシタガ、元來豐ノ上ノ生活ニ慣レテ居テ、サウシテ舊土人ハ、先づ疊ヲ剥ガシ、床板ヲ剝ガシ、床根太ヲ剝ガシ、サウシテ土間ニ枯草ヲ敷イテ、其中ニ潜ツテ居ルト云フヤウナ状態ニアリマシタノデアリマス、然ルニ教育ノ方面ニ於キマシテハ、特殊ノ土人ノミシタガ、最初土人ノミノ學校デアリマシテハ、競争心ナキ爲ニ教育ノ成績ヲ擧グルコトヲ得ズ、大正八年ニ至リマシテ學制ヲ變ヘテ、内地ヨリ移住セル子弟ト共ニ自由

ニ考ヘテ居ルカト云フヤウナ御議論モアツタヤウニ拜聽致シテ居リマスルガ、自然ノ趨勢ハ同化ヲシツ、アルノデアリマス、明治十三年明治天皇陛下ガ北海道御巡幸ノ際ニ、初メテ戸籍ヲ作ラレマシテ、其時ノ人口ハ一万九千何ガシデアツタ思フノデアリマス、現在ハ一万六千餘、三千七百籠

デ、殖エテ居ラヌデハナイカト云フヤウナ疑ガアリマスルガ、順次同化致シマシテ、現

ト云フヤウナコトデ上京致シマシタモノガ、順次殖エテ參リマシテ、現在ハ五十ノ道土人ガ東京市民トナシテ居ル筈デアリマス、是ハ最初ハ土人ノ狀態ヲ宣傳スル爲ニ

ニ東京市ニ於キマシテモ、五十人餘ノ北海道土民ガ確ニ居ル筈デアリマス、其他小

都市ニ出テ參リマスル者、或ハ府縣ノ者ト結婚ヲ爲スト云フヤウナ者ガ、四五千餘ノモ

ノガ確ニ同化融合シテ向上致シテ居ル筈デ

アリマス、本法ノ改正ニ依リマシテ、更ニ彼等ノ社會當念ヲ向上セシムルニ大ナル裨益アルコトヲ信ズルノデアリマス、現在ノ三千七百世帯、一万六千ノ北海道舊土人ノ爲ニ、本法ノ改正ハ洵ニ福音ヲ與ヘラレタルモノト信ズルノデアリマシテ、茲ニ贊成ノ意ヲ表シマス、サウシテ滿場ノ皆様ノ御贊成ニ依ツテ、成文トセラレンコトヲ希望致ス次第デアリマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 討論ハ淺川君ノ演説ダケデ終局致シマシタ、本案ノ第一讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」と呼フ者アリ)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○松永東君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

北海道舊土人保護法中改正法律案 (政府提出) 第一讀會

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)日程第一、輸出補償法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——商工大臣伍堂卓雄君

○國務大臣(伍堂卓雄君) 輸出補償法中改正法律案提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、政府ハ昭和五年ヨリ輸出補償法ヲ制定施行シ、輸出手形ニ對スル金融ノ便ヲ圖リ、本邦商品ノ販路開拓ヲ促シ、輸出貿易増進上相當ノ效果ヲ收メテ參ツクノデアリマス、併ナガラ最近ノ通商情勢ノ變化ニ對應シマシテ、輸出補償制度ヲ積極的ニ活用スルガ爲ニ、尙ホ本制度ヲ擴充スルノ必要ヲ認メマ

第三條中「滿期日」ヲ「滿期」ニ、「償還又ハ支拂」ヲ「支拂」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

特別ノ事情アル場合ニ於テハ命令ノ定期日」ヲ「滿期」ニ改メ同條第一項但書ヲ項第一號ニ掲タル金額ヲ控除セザルコトヲ得

第四條中「償還請求權」ヲ「遡求權」ニ、「滿期日」ヲ「滿期」ニ改メ同條第一項但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ其ノ權利ノ行使ニ要スル費用ガ其ノ行使ニ依リテ得ベキ金額ヲ超ユルモノト認メラル場合其ノ他特別ノ事情アル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ權利ノ全部又ハ一部ヲ行使セズ又ハ一時行使セザルコトヲ得

第五條中「償還請求權」ヲ「遡求權」ニ、「百分六十」ヲ「百分ノ七十」ニ、「償還ノ請求ヲ爲サザルコト」ヲ「遡求權」ヲ行ハザルコトニ改ム

第七條第一項中「商品ヲ輸出シタル爲受取リタル約束手形」ヲ「命令ノ定ムル所ニタル輸出補償法中ノ改正案ニ對シマシテ、依リ商品ノ輸出ノ爲受取リタル約束手形又ハ振出シタル荷爲替手形以外ノ爲替手形」ニ改ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム本法施行前ニ銀行ガ買取リタル手形ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

(國務大臣伍堂卓雄君登壇)

○議長(富田幸次郎君) 諸君、只今議題ニナリマシタル輸出補償法中ノ改正案ニ對シマシテ、先づ第一ニ現在ノ輸出法ガ如何ニ運用セラレ、如何ナル效果ヲ擧ゲテ居ルカト云コトニ對シマシテ御尋ニ致シタイト存ジマス、第二ニハ、最近ノ國際通商情勢ノ變化ニ對シマシテ、政府ハ如何ナル對策ヲ持ツテ居ルカト云コトデアリマス、第三ニ、日支經濟提携ニ對シマシテ、如何ナル方策ヲ持ツテ居ル明快ナル御答辯ヲ要求致シタイト存ジマスガ、是ハ皆ソレバ、所管大臣ヨリ責任アルマス

我國ノ財政經濟ノ上カラ考へマシテ、貿易ガ重要ナル役割ヲ持テ居リマスルコトハ言フ迄モナイコトデアリマス、我國ノ財政經濟ガ比較的良好ナル狀態ヲ續ケルコトガ出來マシタルコトハ、色々ノ原因ハアリマセウガ、最近ノ輸出貿易ガ相當ノ成績ヲシテ從來六十四万圓位ノ補償額ニアリマシタモノガ、百十九万八千圓ニ殖エタ、五十六七万圓ノ金額ガ殖エタ云コトト、地域ヲ擴大ナサルサウデアリマスガ、其他ニ補償率ヲ御上げニナルト云フヤウナコトガ、主ナル問題ノヤウニ考ヘラレマスルガ此世界ノ貿易思想ノ變化トデモ言ヒマセウカ、國際通商上ノ非常ナル變化ニ對シマシテ、斯ノ如キ微々タル政策ヲ以テ、我國ノ輸出貿易ハ如何ナル理由ガアッテ、相當ノ成績ヲ舉ゲルコトガ出來タノデアリマスカ、固





分デナイト認メマスル、舊市場ニ對スル補償制度ヲ行ヘントスルノデアリマス。輸出補償制度ヲ擴大スル位デ、貿易ノ改善ヲ行フト云フコトハ、ムヅカシイヂヤナカト云フ御尋デアリマス、御尤ナコトデアリマシテ、是ハ唯貿易改善ノ一部ノ政策ニ過ギナイノデアリマス、是ト伴ヒマシテ、最モ日本ニ影響ノ大ナル、即チ原料政策ニ關係致シマスル輸入品、其輸入品ニ對シマシテモ、補償制度ヲ新ニ設ケントスルノデアリマス、其外海外市場ノ調査、又我國ノ産業ノ貿易化、輸出化、即チ今日最モ迫害ヲ受ケテ居リマス織維工業デアリマスガ、其外ニモット輸出化シ得ル産業ノ獎勵等ヲ行ヒマストカ、其他貿易調査トカ、色々ノ新シイ施設ヲ行ヒマス爲ニ、別ニ提出致シマル法案等ガアルノデアリマシテ、又相當ノ豫算ヲ要求致シテ居ルノデアリマス、補償制度擴充ノ爲ニ、是バカリノ金デハ仕方ガナイデハナカト、モット大キナ豫算ヲ要求シテヘドカト云フ御意見デゴザイマスガ、勿論はハイ程度宜ノデアリマスルガ、先づ此位ノ程度ニ十二年度ハ止メテ置キマシテ、時勢ノ推移ニ依ツテ之ヲ増額致シタイト思ヒマス。

最後ニ支那ニ對シテ特殊ノ補償制度ヲ設ケルコトニ對シテ考へテ居ナイカト云フ御意見デゴザイマスガ、今度提出シマシタノケルコトニ對シテ考へテ居ルノデアリマシテ、即チ輸出補償法ノ適用地域ヲ、舊市場タル支那ヲ重要視シテ考へテ居リマスルコトト、ソレカラ新ニ外國ノ政府、公共團體等ニ對スル重工業品ノ輸出ニ付テ、補償ヲ爲スノ途ラ開クコト致シマシタガ、是ハ支那ヲ主ナル目的トシテ居ルノデアリマス、併ナガラ將來其結果ニ鑑ミマシテ、必要ニ應ジテ特ニ對支輸出補償制度ヲ設ケルコトニナルカモ知レマセヌガ、今度提出シマシタ豫算ハ、此舊市場ト云フ中ニ、特ニ支那ヲ重

視シテ入レタノデアリマス。

〔政府委員堀内謙介君登壇〕

○政府委員堀内謙介君登壇) 只今通商上ノ事ニ付テ色々ノ問題ヲ御尋デゴザイマシタカラ、ソレ等ノ中ノ主ナ點ニ付テ御答申上げマス

第一ニ印度、「ビルマ」、蘭領印度、濠洲等ニ對スル通商交渉ハ、ドウ云フ經過ニナッテ居ルカト云フ御尋デゴザイマシタ、其中濠洲トノ間ニハ、昨年ノ十一月既ニ協定方出来マシテ、既ニ實施サレテ居ルノデアリマス、尙ホソレニ引續イテ濠洲トノ間ノ通商條約ノ締結ニ付キマシテ、目下交渉ヲ開始スル段取トナダテ居スリマス、又「ビルマ」トノ間ノ通商交渉ハ最近ニ纏マシテ、既ニ假調印ヲ見タノデアリマス、更ニ引續キマシテ印度トノ間ニモ目下交渉中デアリマス、今日マデ相當兩方ノ意見方接致シマシタケレドモ、尙ホ今後話合ヲ要スル點方残ダテ居ルノデ、目下其交渉ヲ繼續致シテ居ル次第デアリマス、又蘭領印度トノ交渉ニ付キマシテハ、昨年ノ春、民間ノ海運ニ關スル交渉ガ行ハレマシタ際ニハ「バタビヤ」ノ總領事ガ蘭印ノ官憲トノ間ニ折衝致シマシテ、側面ヨリ此交渉ノ成立ヲ援ケマシテ、既ニ協定が成立シテ實施ヲ見テ居ル次第デアリマスガ、此海運ニ關スル交渉ノ纏リマンクコトニ依ツテ、一般ノ通商ニ付ケマシテ、之ニ付キマシテハ、一方ニ於テハ先以テ政治的ニ兩國ノ關係ヲ好轉セシムルト云フコトガ必要デアリマスルノデ、其爲ニハオ互ニ兩國ノ立場ヲ能ク理解スル、又日本ノ主義或ハ政策ト云フモノヲ、十分支那側ニ徹底セシメント云フコトニ付テ、種々努力ヲ致シマスルト共ニ、一月ニナリマシテ、蘭領印度側ヨリ具體的ノ提議ガゴザイマシタノデ、ソレニ基イテ目下對案ヲ考究中デゴザイマス

○加藤飼一君登壇) ○加藤飼一君 商工大臣ノ御答辯ハ色々リマシタガ、ドウモ國務大臣トシテノ見識ガ現レテ居ラヌヤウニ思ヒマス、其位ノ答辯デシタラ凡ソ分ツテ居タ、今商工大臣ハ輸入サレテ居ルノデアリマシテ、又羊毛ノ如キモ、日濠間ノ關係ガ御承知ノ如キ事態ニナリマシタ際ニハ、或ハ南阿或ハ南米ノ「アルゼンチン」等ニ、其供給ヲ求メルト云フヤウナ工合ニ、漸次此給源分散主義ノ趣旨ニ副フヤウナ、輸出入ノ調整ヲ講ジテ來タ次第デゴザイマス

○議長(富田幸次郎君) 加藤君、外ニ答辯ガアリマセヌカ  
〔加藤飼一君登壇〕  
○加藤飼一君登壇) 商工大臣ノ御答辯ハ色々リマシタガ、ドウモ國務大臣トシテノ見識ガ現レテ居ラヌヤウニ思ヒマス、其位ノ答辯デシタラ凡ソ分ツテ居タ、今商工大臣ハ綿織物ノヤウナ特殊ナ物ニ付テモ、出來得ル限リノ輸出獎勵ノ制度ヲ考ヘテ居ルト云フ御話デアリマシタガ、一體何ヲ考ヘテ居ルノデアリマスカ、綿織物ノ輸出ハ最近非常ニ惡イノデアリマス、昭和八年度ニ比べマスト、昭和九年度ハ生地、晒加工ヲ合セシテ、二割三分三厘ノ輸出增加デアリマシテ、相當ノ增加率ハ示シテ居リマスガ、常ニ惡イノデアリマス、昭和十一年度ニナリマスト、九年度ニ比シテマシテ、五分七厘シカ値エテ居ラナイ、所ガ昭和十一年度ニナリマスト、五分何厘十年度ニ付テ、種々努力ヲ致シマスルト共ニ、一カラ見テ減額シテ居ル、此一事ニ付テ考ヘテ見マシテモ、一體ドウ云フコトヲ考ヘテ居ラレルノカ、悪クナルヤウニ考ヘラレチヤ困ル、又斯ウ云フ工合ニ日本ノ低物價政策ト云フモノガ行詰テ、段々ト國內ノ物價ガ上ツテ參リマスル關係上ニ替ノ値段モ大

良好ニ導クコトハ困難デアラウ、其點ニ付テ政府ハ如何ナル對策ヲ持ツテ居ルカト云フ御尋ガゴザイマシタガ、此點ニ付キマシテ、是ハ對支投資其他ノ企業ヲ、出來得ル限リ獎勵助成スルコトニ努力致シタイテハ、政府ハ海外ニ於ケル原料品其他ノ供給地、所謂給源ニ付テノ諸般ノ調查ヲ致シマシテ、所謂給源ノ分散主義ニ依リマシテ、日本ト主ナル貿易國トノ間ノ輸出入ノ調整ヲ、出來得ル限リ有利ニ展開セシメルヤウニ努力致シテ居ルノデアリマス、殊ニ先程御尋デアリマシタ、所謂給源ノ分散主義ニ依リマシテ、日本側ニ於テ種々努力致シマシタ結果、或ル程度マデ此分散主義ノ目的ニ副フヤウニナリマシテ、例ヘバ棉花ノ如キモ、昨年以來「ブラジル」ノ棉花ハ相當多量ニ日本ニ輸入サレテ居ルノデアリマシテ、又羊毛ノ如キモ、日濠間ノ關係ガ御承知ノ如キ事態ニナリマシタ際ニハ、或ハ南阿或ハ南米ノ「アルゼンチン」等ニ、其供給ヲ求メルト云フヤウナ工合ニ、漸次此給源分散主義ノ趣旨ニ副フヤウナ、輸出入ノ調整ヲ講ジテ來タ次第デゴザイマス

○議長(富田幸次郎君) 加藤君、外ニ答辯ガアリマセヌカ  
〔加藤飼一君登壇〕  
○加藤飼一君登壇) 商工大臣ノ御答辯ハ色々リマシタガ、ドウモ國務大臣トシテノ見識ガ現レテ居ラヌヤウニ思ヒマス、其位ノ答辯デシタラ凡ソ分ツテ居タ、今商工大臣ハ綿織物ノヤウナ特殊ナ物ニ付テモ、出來得ル限リノ輸出獎勵ノ制度ヲ考ヘテ居ルト云フ御話デアリマシタガ、一體何ヲ考ヘテ居ルノデアリマスカ、綿織物ノ輸出ハ最近非常ニ惡イノデアリマス、昭和八年度ニ比べマスト、昭和九年度ハ生地、晒加工ヲ合セシテ、二割三分三厘ノ輸出增加デアリマシテ、相當ノ增加率ハ示シテ居リマスガ、常ニ惡イノデアリマス、昭和十一年度ニナリマスト、九年度ニ比シテマシテ、五分七厘シカ値エテ居ラナイ、所ガ昭和十一年度ニナリマスト、五分何厘十年度ニ付テ、種々努力ヲ致シマスルト共ニ、一カラ見テ減額シテ居ル、此一事ニ付テ考ヘテ見マシテモ、一體ドウ云フコトヲ考ヘテ居ラレルノカ、悪クナルヤウニ考ヘラレチヤ困ル、又斯ウ云フ工合ニ日本ノ低物價政策ト云フモノガ行詰テ、段々ト國內ノ物價ガ上ツテ參リマスル關係上ニ替ノ値段モ大



ヒ、或ハ獨逸ノ統制經濟及ビ貿易ニ關スル  
統制等ヨリ考ヘ、又英米佛以外ノ國々ハ、多  
ク此傾向ヲ帶ビテ今日進ミツ、アルノニ對  
應シテ、我ガ政府トシテハ先づ第一ニ何ヲ  
爲スベキカト言ヘバ、現在ノ外務省ナリ、  
商工省ナリノ貿易ニ關スル機關ニ一大改革  
ヲ企テテ之ヲ充實シ擴張シテ、一ノ系  
統アル官廳ヲ作ラナケレバ、到底之ニ對應  
致スコトハ出來ナインデアリマス、現ニ我  
ガ遣外使臣ノ中デ商務官ノ制度ガアリマス  
ルガ、商務官制度ノ如キハ、今日マデ吾々  
ハ是ハ無用ノモノデアル、少クトモ三井、  
三菱ノ支店長ノ情報ノ方ガ、遙ニ商務官ヨ  
リモ敏速デアリ、正確デアルト考ヘテ居タ  
ノデアリマス、然ルニ今ヤ此傾向ハ一變シ  
テ、總テノコトハ商務官ヲ通ジテ、其國ノ  
政府ニ交渉スルニアラザレバ、輸出輸入共  
ニ殆ド手ノ著ケラレナイ狀態ニナシテ參ッタ  
ノデアリマス、此商務官制度ノ擴張ト、其  
機關ノ活用ハ今日ノ急務デアリマス、現ニ  
私ハ獨逸ノ統制經濟ニ對シテ、一ツノ品物  
ヲ賣ルノニモ買フノニモ、商務官ノ手ヲ通  
ジテ獨逸政府ノ許可ヲ得ナケレバナラナ  
イ、此制度ガ獨逸ニ確立シタニ拘ラズ、我  
ガ外務省ノ獨逸駐在ノ商務官制度ノ如キ  
ハ、十年一日ノ如クデアリマス、長井商務  
官ノ役所へ行テ見レバ、一人デ殆ド見ルモ  
氣ノ毒ナ有様ノ活動ヲシテ、百八十何部門  
ノ部門ヲ設ケテ、各ノ専門的研究ヲシテ、  
寸時モ政府トノ交渉ヲ怠ルコトノ出來ナイ  
窮状ニ陥ヅテ居ル、英國ノ松山商務官ノ活動  
モ、亦到底前日ノ比デハナインデアリマ  
ス、是等ノ商務官制度ニ對シテ、其費用モ  
商務官ノ活躍ヲ俟ツニアラザレバ、此障壁  
ヲ高ウ致シテ居ル輸出入貿易ノ圓滑ヲ期ス  
ルコトノ出來ナイ國際情勢ノ今日、全ク政

府ハ手ヲ拱イデ居ル、若シ私ハ此處ニ佐藤  
外務大臣ガ居ラレルナラバ、佐藤外務大臣  
ニ言ヒタイノデアリマス、佐藤サント同窓  
デアラレル松山商務官ハ、倫敦デ何ト唱ヘ  
テ居ルカ、今日ハ外務省トカ、商工省トカ  
言シテ居ル時代デヤナイ、日本ニハ貿易省ヲ  
作ラナケレバナラナイ時代ダ、是ハ其通り  
専門ノ工業組合等、外國ニ關スルモノヲ其  
下ニ統一セシメテ、命令系統ヲ統一セシメ  
テ、組織アル官廳ヲ樹立シテ、此貿易戦ニ臨  
シテ、ドッヂヲ無クスルノカ知リマセヌガ、  
吾々其歴史ニ於テ、十數年漸ク全國民ノ希  
望ガ叶ウテ、農民ノ希望ガ叶ツテ農林省ガ  
獨立シタ、ソレヲ今度又行政改革トカ庶政  
一新トカデ、商工、農林ヲ一緒ニシテ產業  
省ヲ作ルナドト云フ議モアル、ソレガ實現  
シテモ私共ハ已ムヲ得ナイガ、サウ云フ消  
極的ナ整理方針バカリデナシニ、積極的ニ  
是デナケレバナラナイトシテ採ツテ居ル、  
獨逸ガ輸出貿易ニ對シテ一割ノ補助ヲ與ヘ  
テ居ル、一割ノ補助ヲ與ヘテ獨逸ノ資本家  
ヲ利シテ居ルノデハアリマセヌ、一割ノ補  
助ヲ與ヘテ獨逸ノ勞働條件ノ維持改善ヲ企  
テ又其爲ニ之ヲ爲シ、其方針ガ實現シツ  
ツアルノデアリマス、我日本ニ於テ斯ノ如キ政  
策ヲ採ルニ當リマシテモ、常ニ國民大衆ノ  
生活ノ維持改善、之ヲ目標トシテ今後ノ政  
策ヲ樹テ戴キタイ、是ダケノ大局的ナ質  
問ヲ致シマス

是ハ加藤君ノ質問ニナリマシタルヤウ  
ニ、此改正ニ依ツテ新市場ノミガ補償セラ  
レタモノガ、舊市場モ補償セラル、コトニ  
ナシタ、商工大臣ハ英、米、獨、佛、伊ヲ除  
シテ、機關ノ充實セル貿易省ヲ作ル位ノ考  
ガナケレバ、今日ノ貿易戰線ニ臨ミ得ナイ  
ノデアリマス、生ヤサシイ輸出補償法等ヲ  
以テシテ、到底戰ヒ得ルモノデハアリマセ  
ス、此點ニ付テハ敢テ答辯ヲ要シマセヌ  
ガ、政府當局ノ考慮ヲ促シテ置キマス

第二ニ伺ヒタイコトハ、勞働條件ト大衆  
生活トノ關係デアリマス、私ハ日本ノ貿易  
ニ關スル、輸出入ニ關スル政府ノ措置ガ、  
強チニ資本家ヲ利スル爲バカリデアルトハ  
申上ゲマセヌ、今後政府ガ斯ノ如キ國策ヲ  
立ツルニ當ツテハ、大衆ヲ目標トシテ政策ヲ  
外務大臣ガ居ラレルナラバ、支那ノ排日的  
ニ擁護ニ立脚シテ居ルガ如クニ見受ケラレ  
デアラレル、松山商務官ハ、倫敦デ何ト唱ヘ  
テ居ルカ、今日ハ外務省トカ、商工省トカ  
言シテ居ル時代デヤナイ、日本ニハ貿易省ヲ  
作ラナケレバナラナイ時代ダ、是ハ其通り  
専門ノ工業組合等、外國ニ關スルモノヲ其  
下ニ統一セシメテ、命令系統ヲ統一セシメ  
テ、組織アル官廳ヲ樹立シテ、此貿易戦ニ臨  
シテ、ドッヂヲ無クスルノカ知リマセヌガ、  
吾々其歴史ニ於テ、十數年漸ク全國民ノ希  
望ガ叶ウテ、農民ノ希望ガ叶ツテ農林省ガ  
獨立シタ、ソレヲ今度又行政改革トカ庶政  
一新トカデ、商工、農林ヲ一緒ニシテ產業  
省ヲ作ルナドト云フ議モアル、ソレガ實現  
シテモ私共ハ已ムヲ得ナイガ、サウ云フ消  
極的ナ整理方針バカリデナシニ、積極的ニ  
是デナケレバナラナイトシテ採ツテ居ル、  
獨逸ガ輸出貿易ニ對シテ一割ノ補助ヲ與ヘ  
テ居ル、一割ノ補助ヲ與ヘテ獨逸ノ資本家  
ヲ利シテ居ルノデハアリマセヌ、一割ノ補  
助ヲ與ヘテ獨逸ノ勞働條件ノ維持改善ヲ企  
テ又其爲ニ之ヲ爲シ、其方針ガ實現シツ  
ツアルノデアリマス、我日本ニ於テ斯ノ如キ政  
策ヲ採ルニ當リマシテモ、常ニ國民大衆ノ  
生活ノ維持改善、之ヲ目標トシテ今後ノ政  
策ヲ樹テ戴キタイ、是ダケノ大局的ナ質  
問ヲ致シマス

居ル、是ガ一番大キナ問題ナノデアル、私  
ハ日本ノ支那ニ於ケル、上海ニ於ケル、或  
ハ天津ニ於ケル金融ヲ申スノデアリマセヌ、  
モット支那各地ニ日本ヲ相手トスル金融機  
関ガ整備致サナケレバ、到底英國ヲ敵トシ  
テ鬭フコトハ出來ナイ、此金融機關ニ對シ  
テ、日本ト密接ナル提携ヲ持ツ金融機關ヲ  
銀行ハ其掛賣ヲ承認シテ金融ノ途ヲ與ヘテ  
居ル、是ガ一番大キナ問題ナノデアル、私  
ハ日本ノ支那ニ於ケル、上海ニ於ケル、或  
ハ天津ニ於ケル金融ヲ申スノデアリマセヌ、  
モット支那各地ニ日本ヲ相手トスル金融機  
關ガ整備致サナケレバ、到底英國ヲ敵トシ  
テ鬭フコトハ出來ナイ、此金融機關ニ對シ  
テ、日本ト密接ナル提携ヲ持ツ金融機關ヲ  
北支及ビ揚子江以北ノ地ニ之ヲ設クルノ考  
ガナイカ、是ガナケレバ到底比競争ニ勝チ  
得ルコトハ出來マセヌ、其他米國ト支那ト  
ノ問題デアリマスルガ、私ハ本法ニ支那ヲ  
含メマスル以上ハ、何故米國ヲ之ニ含メナ  
イカ、日本ノ最モ重大ナル市場デアル支那  
ヲ含メテ、而シテ又最モ重大ナル取引國デ  
アル米國ヲ之ニ含メナイ理由ト、是ハ英、  
佛、獨、伊ハ金融機關ガ整備シテ居ル

ト申シマスケレドモ、金融機關ノ整備ニ依ツテ本法ノ御厄介ニナルノデハアリマセヌ、是ハ三井デアルトカ、三菱デアルトカ、大機關ニ依ツテ取引致サレテ居ルモノハ、本法ノ御厄介ニハナラナイ、一般中小以下ノ輸出貿易ニ從事致シテ居ル者ガ本法ノ御厄介ニナル、サウ致シマスルト、米國ノ今日ノ情勢ハ、非常ナル貿易上ノ變化ヲ來シマシタ、生絲ヲ以テ大宗ト致シタ我ガ輸出貿易ハ、勿論生絲ガ重位ニ居ルコトハ申スマデモアリマセヌケレドモ、茶デアルトカ、蜜柑デアルトカ、鑑詰トカ、農產物、其他織織物、雜貨類ノ進出ハ非常ナ勢ヒデアリマス、是等ノモノコソ本法ノ厄介ニナルベキデアル、私ハ商工省内ニ於テモ、本法ニ亞米利加ヲ加ベシト云フ議論ノアルコトヲ拜聽致シテ、洵ニ心強ク思ツテ居リマス、商工大臣ヘドウゾ省内ノ意向ヲ斟酌セラレテ、本法ニ亞米利加ヲ加フルノ決心ヲシテ戴キタイ、先程來金額ガ少イト云フ話ガアリマシタガ、本法ノ運用ニ依ツテハ二千一百萬圓モノ金ガ使ヘルノデスカラ、遠慮ナク亞米利加ヲ入レテ、對米貿易ノ伸張ヲ圖ツテ戴キタインデアリマス

本法ニ直接關係アルコトデ御伺致シタイコトハ、補償限度ノ擴張デアリマス、甲種ノ七割ヲ八割トシ、乙種ヲ六割カラ七割トシカ、斯様ニ甲乙ヲ一割ヅツ擴大シタル根據ハ何處ニアルカ、是ガ一點、其次ハ補償料ノ問題デアリマス、今日マダノ本法ノ運用ヲ見ルニ、假ニ十万圓ノ補償ヲシテ貰ヒマスレバ、十万圓ダケノ補償料ヲ取ラレタ、是ハ實ニ不都合デアリマス、政府ハ七割シカ補償ヲシテ居ラナカッタ、七万圓ノ補償ガ本法ニ據ツテ補償セラレテ居ツタ、補償ト云

ノ以上ハ、其補償ヲシタル實額ノ七万圓ニ對シテ補償料ヲ取ルベキモノナノデアル、ソレヲ手形全額ニ對シテ補償料ヲ取ルコト易ハ、勿論生絲ガ重位ニ居ルコトハ申スマニ、又下ダナケレバナラナイモノト考ヘマス、政府ハ之ヲ引下ゲルノ意思ガアルガ如クニ御伺致シマシタガ、明瞭ニ一ツ此補償料ノ實額マデ引下ゲルト云フコトニ改正シテ戴キタイ、此點ニ付テノ辯明ヲ得タイノデアリマス

尙ホ補償契約ノ銀行ノ增加デアリマス、此補償銀行ガ少イ爲ニ、當事者ハ非常ナル迷惑ヲ致シテ居ルノデアリマスルガ、此補償契約銀行ヲ增加スルノ意思ハナイカ、同時ニ是等ノ手續ヲスルニハ、非常ナル煩雜ノ手續ヲ要スルノデアルガ、此手續ヲ簡易化スル御考ハナイカ、是等ハ省令ノ改正ニ依ツテ出來得ルコトデアリマスルカラシテ、是非是等ノ省令ノ改正ニ付テ御意見ヲ承り度ヲ一貫シタルモノガアルトヘ見ラレナイノデス(拍手)現ニ今回大藏大臣ノ說明シテ居ル修正豫算ニ於テモ、輸出振興ノ爲ノ十九万幾ラノ費用ヲ之ヲ削減致シ、又之ヲ削減スルコトヲ當局者ハ認メタデハアリマセヌカ、口ニ於テ貿易國策第一主義ヲ唱ヘテ、ロデコソ貿易振興ヲ唱ヘテ居ツモ、豫算面ノ手續ヲ要スルノデアルガ、此手續ヲ簡易化スル御考ハナイカ、是等ハ省令ノ改正ニ依ツテ出來得ルコトデアリマスルカラシテ、ニ於テ其重要ナル費目ヲ削除スルト云フヤウナ態度デハ、本法ニ對シテモ亦此金ノ支出ノ點ニ付テ疑問ヲ懷カザルヲ得マセヌカラ、特ニ之ヲ言フノデアリマス、國有財產ヲ拂下ゲテ、其拂下ゲタ金ノ使途ヲ指定シタル決議ト云フヤウナモノハ、其金ガ入ラナケレバ其事業ハ行ハレマセス、是ハ今日マデノ私共ノ概念ナノデス、併シ目的稅ト稱セラレタル輸出統制稅ハ、此輸出補償ノ爲ノ目的稅ダトハ書イテナイ、唯一般輸出タク、其輸出統制稅ニ依ツテ得ル金ノ中五十万圓ガ本法ノ改正ニ充當セラレル、シテ見マスルト、四百餘万圓上リマスル輸出統制稅ガ、是ガ新設セラレルコトヲ前提トシテ本法ハ生レテ來ルヤウデアリマス、是ガ私共ニハ實ニ不可解ナノデアル、本法ト輸出統制稅トハ如何ナル因果關係ヲ持ツテ居ルカ、輸出統制稅ノ運命ハ、私ハ之ヲ豫斷致スノデハアリマセヌケレドモ、未ダ法案ノ提出セラレザルニ先ダツテ、一般國務大臣ニ對スル質疑ヲ通ジテ、本案ノ輸出統制稅ニ對スル輿論ハ如何ナル點ニアルカ、之ヲ窺知ルコトガ出來ルノデアリマス(拍手)輸出統

法ニ必要デアルダケノ金ハ、政府ハ之ヲ支出し致サナケレバナラナイ筈ナノデアル、故ニ政府ト致シマシテハ、輸出統制稅ノ目的稅トシテ、其輸出統制稅ノ金ヲ本法ニ充當スルト云フ此態度ヲ改メテ、輸出統制稅ノ如何拘ラズ、本法ニハ是ダケノ支出ヲスルト云フコトヲ改メテ、輸出統制稅ノ如ト云フコトヲ、此場合言明致シテ戴キタイ、ソレデナケレバ政府ノ輸出振興ニ對スル結果ノ實體マデ引下ゲルト云フコトニ改正シテ戴キタイ、此點ニ付テノ辯明ヲ得タイノデアリマス

○國務大臣(伍堂卓雄君)此輸出補償法改正ノミニ依ツテ、對支貿易ヲ改善スルト云フコトハ出來ナイデハナイカト云フ御意見デアリマシテ、私ト雖モ此改正ノミニ依ツテ對支貿易ヲ改善シ得ルモノトハ思ヒマセヌガ、併シ必ズ效果ハアルト思フノデアリマス、北支ノ狀況、更ニ南支方面ノ狀況ヲ考ヘテアリマシテ、今日甚ダ不安定ナ狀況ニアリマスノデ、是ガ投資ニ對シマシテハ、可ナリ資本家モ考ヘルグラウト思ヒマセヌガ、併シ之ヲ政府ノ手ニ依ツテヤリマスルカ、或ハ他ノ特別ナ機關ヲ通ジテヤリマスルカト云フコトニ付キマシテハ、其實情ニ應ジテ考究シナケレバナラヌモノト私ハ考ヘテ居リマス

ソレカラ米國ヲ適用範圍外ニ置クノハ宜シクナイデハナイカト云フ御意見デアリマス、是ハ將來必要ニ應ジテ全世界ニ及ボシタイト考ヘテ居リマスガ、從來ノ新市場ニシテ行ヒマシタノヲ、今回ハ先ツ爲替銀行、各商社ノ支店ノ所在地ヲ除キマシテ、

先程申シマシタヤウナ東洋、南洋、歐洲、北米等ノ市場ニ試ミルコトニ致シタノデアリマス、將來必要ニ應ジテ是ハ擴張スル考デ居リマス

ソレカラ補償制度ノ引上ヲ、甲乙兩種トモ

一割ト爲シタル理由ハドウデアルカ、是ハ本制度ノ實行ノ成績、又業者ノ希望等ヲ參照致シマシテ、尙第六十五回帝國議會、第六十七回帝國議會ニ於テ、補償限度ヲ一割方引上ゲル旨ノ衆議院ノ建議ガゴザイマシタ、ソレヲ考慮ニ置キマシテ、今回之ヲシタ、ソレヲ考慮ニ置キマシテ、今回之ヲス

ソレカラ次ニハ補償料ハ之ヲ引上ゲル餘地ハナイカト云フ御尋デゴザイマスガ、是ハ施行細則ヲ改正致シマシテ、甲種補償ニ付テハ二割、乙種補償ニ付キマシテハ三割方、之ヲ引上ゲル筈ニ致シテ居リマス。

最後ノ輸出統制稅ガ成立タナカッタ場合ニ、貿易改善ノ施設ヲドウスルカ、斯ウ云フ御質問デゴザイマスルガ、貿易改善ニ關スル施設ハ絶對ニ必要デアルト私ハ考ヘテ居リマス、是非是ハ御協賛ヲ願ハナケレバナラスト思ッテ居ルノデアリマス、是ガ若シ輸出稅ガ成立タヌ場合ニドウナルカト云フコトニ對シマシテハ、大藏大臣カラ御答辯ヲ願フ積リデゴザイマス。

○政府委員(堀内謙介君) 只今御尋ノ中、直接外務省ニ關係致シマスルモノニ付テ御答申上ゲマス、第一ニハ、商務官制度ヲ如何ニ見ルカ、之ヲ擴張スル所ノ考ハナイカト云フ御尋ニ付キマシテハ、勿論外務省ト致シマシテハ、商務官制度ノ重要性ヲ十分認メテ居リマシテ、從來ト雖モ財政ノ許ス限リ出來ルダケ之ヲ増員擴張シテ參々タノアリマス、尙ホ商務書記官、商務參事官、又ハ商務領事ト名ヲ付ケマスル職員ハ、豫算等ノ關係デ十分行渡ラナイ場合モアリマスルノデ、世界ノ各方面ニ於ケル新市場ノ

開拓ノ急務ニ應ジマスル爲ニ、別ノ名義ヲ以チマシテ、例ヘバ普通ノ領事又ハ副領事ノ如キ名稱ノ下ニ、實質ニ於テ專ラ商務ニ從事スル職員ヲ增加致シマシテ、出來得ル限リ貿易ノ伸張、海外販路ノ擴張、其他ノ通商上ノ事務ニ從事致サセテ居ル次第デアリマス。

○第二ニ、支那ノ關稅改正ニ付テハ如何ナル措置ヲ執ラントスルカト云フ御尋ガゴザ

イマシタガ、此問題ニ付キマシテハ、昨年ノ秋南京ニ於テ行ハレマシタル日支交渉ノ際ニモ、重要ナル一問題トシテ之ヲ交渉致シタノデアリマス、幸ニシテ關稅改正ノ主

義ニ付テハ、支那側モ之ヲ認メタノデゴザ

イマスルケレドモ、之ヲ具體的ニ如何ナル

稅率ニ定ムルカト云フコトニ付キマシテ

ハ、マダ兩者ノ間ノ意見ガ十分合致スルニ至ラナカッタノデアリマス、併ナガラ支那側

ニ於キマシテハ、既ニ専門家ヲシテ具體的

ニ稅率ノ改正案ヲ研究セシメテ居ルト云フ

コトハ、先方カラ言明シテ居タ所デアリ

マス、仍テ今後モ日支貿易ノ上ニ障碍トナ

ルガ如キ現行稅率ノ適正ナル改正ニ付キマ

シテ、引續キ交渉ヲ致ス考デ居ルノデアリ

マス

○第三ニハ、對支金融機關ヲ新ニ設置スル

所ノ考ガアルカナイカト云フ御尋ガゴザイマシタガ、此點ニ付キマシテモ、斯ノ如キ

必要ノアルコトハ全然御同感デゴザイマス、今日マデアリマスル所ノ我國ノ銀行、又ハ興中公司ノ如キ機關ヲ、益利用致シマシテ、我國ノ對支貿易ノ上ニ必要ナル金融ノ便益ヲ圖ラシメルコトハ勿論デゴザイマスルガ、更ニ進ンデ日支合辦ノ「シンヂケート」ノ如キモノモ作ルノガ、時代ノ必

要ニ應ズル所以デアルト云フヤウナ意見モゴザイマシテ、是等ハ相當考究ニ値スル事案デアラウト考ヘマスノデ、目下ソレ等ノ點ニ付テモ種々研究致シテ居ル次第デアリマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 大藏大臣ハ只今席ニ居リマセヌ

○深澤豐太郎君 議長、簡単デアリマスカラ、此席カラ……

○議長(富田幸次郎君) 許可致シマス

○深澤豐太郎君 商工大臣ハ此改正ニ依テ新市場、舊市場ヲ加ヘルガ、亞米利加ヲ除クト云フ趣意ノ御話ガアリマシタガ、是

テ新市場、舊市場ヲ加ヘルガ、亞米利加ヲ

シタノデアリマス、幸ニシテ關稅改正ノ主

義ニ付テハ、支那側モ之ヲ認メタノデゴザ

イマスルケレドモ、之ヲ具體的ニ如何ナル

稅率ニ定ムルカト云フコトニ付キマシテ

ハ、マダ兩者ノ間ノ意見ガ十分合致スルニ

至ラナカッタノデアリマス、併ナガラ支那側

ニ於キマシテハ、既ニ専門家ヲシテ具體的

ニ稅率ノ改正案ヲ研究セシメテ居ルト云フ

コトハ、先方カラ言明シテ居タ所デアリ

マス、仍テ今後モ日支貿易ノ上ニ障碍トナ

ルガ如キ現行稅率ノ適正ナル改正ニ付キマ

シテ、引續キ交渉ヲ致ス考デ居ルノデアリ

マス

○第三ニハ、對支金融機關ヲ新ニ設置スル

所ノ考ガアルカナイカト云フ御尋ガゴザイマシタガ、此點ニ付キマシテモ、斯ノ如キ

必要ノアルコトハ全然御同感デゴザイマス、今日マデアリマスル所ノ我國ノ銀行、又ハ興中公司ノ如キ機關ヲ、益利用致シマシテ、我國ノ對支貿易ノ上ニ必要ナル金融ノ便益ヲ圖ラシメルコトハ勿論デゴザイマスルガ、更ニ進ンデ日支合辦ノ「シンヂ

ケート」ノ如キモノモ作ルノガ、時代ノ必

又、法制通ノ山崎農林大臣モオ居デニナルノデアリマスカラ、此點ニ付テ明確ナル政

府ノ御答辯ヲ御伺致シタノデアリマス

〔國務大臣伍堂卓雄君登壇〕

○國務大臣(伍堂卓雄君) 私カラハ御答辯致スコトヘ出來マセヌデゴザイマス

〔「確信ナシニ提案シタノカ」「ソンナコトデヤ駄目ヤナイカ」ト呼フ者アリ〕

○深澤豐太郎君 最モ重大ナル質疑ノ點デアリマスルカラシテ、政府ノ一致セル意見ヲ國務大臣ナリ、法制局ナリ、大藏省ナリ、何レモ宜シイノデス、本法成立ノ上ヘ之ニ

要スル費用ハ、國家ノ支出スペキモノデア

ルト云フコトニ關スル法制上ノ意見ヲ、此場

合明確ニ致シテ戴キタイノデアリマス、然

ラザレバ本案ノ審議ヲ致スコトハ到底不可能デアリマスカラ、其點ニ付テ此場合明確

ナル御答辯ヲ要求致シマス(拍手)

○國務大臣伍堂卓雄君登壇

○國務大臣(伍堂卓雄君) 私ト致シマシテ

ハ、是非共此統制稅ハ御協賛ヲ得ルモノト

信ジマシテ、實行ヲ致シタイト思ヒマス、併シ是レ以上ハ只今法制局長官モ居リマセ

スカラ、私トシテハ答辯ガ出來マセヌ

○深澤豐太郎君 三度ヨリ發言スルコトハ

許サレナインデアリマスガ、議長ニ對シテ議事進行デ發言致シタイト思ヒマス

○議長(富田幸次郎君) 議事進行デスカ

○深澤豐太郎君 ハイ、議長ハ只今ノ質疑

答辯ヲ御聽取ニナシテ、此質疑應答ニ對ス

ル政府ノ答辯ヲ、必ズ責任アル當局ヨリ答

辯ヲ爲サシムベク手續アランコトヲ希望致シマス

致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員  
ノ選舉ニ付キ御詣リ致シマス

○中山福藏君 本案ハ議長指名二十七名ノ

委員ニ付託セラレントコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 中山君ノ動議ニ御

異議アリマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕  
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ  
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程  
第二乃至第五ハ便宜上一括議題ト爲スニ御  
異議アリマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ  
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程  
第二乃至第五ハ便宜上一括議題ト爲スニ御  
異議アリマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ  
マス、仍テ日程第二、漁船保険法案、日程  
第三、漁船再保険特別會計法案、日程第四、  
森林火災國營保険法案、日程第五、森林火災  
保險特別會計法案、右四案ヲ一括シテ第一  
讀會ヲ開キマス——農林大臣山崎達之輔君

第二 漁船保険法案(政府提出)

第一讀會

第三 漁船再保険特別會計法案(政府  
提出)

第一讀會

第四 森林火災國營保険法案(政府  
提出)

第一讀會

第五 森林火災保險特別會計法案(政  
府提出)

第一讀會

第六 漁船保険法案

第一章 漁船保険組合

第一條 漁船ノ所有者ハ其ノ所有スル漁

船(漁具ヲ含ム)ニ付相互保險ヲ爲ス目  
的ヲ以テ漁船保險組合ヲ設立スルコト  
ヲ得

保險ノ目的タルベキ漁船ハ勅令ヲ以テ  
之ヲ定ム

第二條 漁船保險組合ハ法人トス

第三條 組合ハ其ノ名稱中ニ漁船保險組  
合ナル文字ヲ用フベシ

漁船保險組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱  
中ニ漁船保險組合ナル文字ヲ用フルコ  
トヲ得ズ

第四條 本法ニ依リ登記スペキ事項ハ其  
ノ事實ノ生ジタル後二週間以内ニ之ヲ  
各事務所ノ所在地ニ於テ登記スペシ

登記スペキ事項ニシテ行政官廳ノ認可  
ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタ  
ル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

本法ニ依リ登記スペキ事項ハ登記前ニ  
在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコ  
トヲ得ズ

第五條 組合ヲ設立セントスルトキハ命  
令ノ定ムル所ニ依リ豫メ區域ヲ定メ其  
ノ區域内ニ於テ組合員タルベキ資格ヲ  
有スル者ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ

前項第一號乃至第三號、第十二號  
及第十三號ニ掲ゲタル事項

二 事務所

三 設立認可ノ年月日

四 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタ  
ルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ

第六條 組合ハ組合員ヲシテ一定ノ保険  
料ヲ醸出セシムルノ外定款ノ定ムル所  
ニ依リ追徵金ヲ醸出セシムルコトヲ得  
前項ノ保険料及追徵金ニ關スル制限ハ  
命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ保  
險金額ヲ削減スルコトヲ得

第八條 組合ハ組合員ヲシテ一定ノ保険  
料ヲ醸出セシムルノ外定款ノ定ムル所  
ニ依リ追徵金ヲ醸出セシムルコトヲ得  
前項ノ保険料及追徵金ニ關スル制限ハ  
命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ保  
險金額ヲ削減スルコトヲ得

第十條 組合員ハ組合ニ醸出スペキ保険  
料及追徵金ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗  
スルコトヲ得ズ

第十一條 保險ノ目的ノ讓受人ハ組合ノ  
承諾ヲ得テ讓受人ノ權利義務ヲ承繼ス  
ルコトヲ得

組合ハ正當ノ事由ナクシテ前項ノ承諾  
ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十二條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第十三條 左ノ場合ニ於テハ組合ハ填補  
額ノ全部又ハ一部ニ付填補ノ責ヲ免ル  
ノ修繕其ノ他必要ナル處置ヲ爲サシム  
ルコトヲ得

第十四條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第十五條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第十六條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第十七條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第十八條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第十九條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

テ生ジタル損害ヲ填補スルモノトス  
前項ノ事故及填補スペキ損害ノ範圍ニ關  
シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第十三條 組合ノ責任ハ定款ニ別段ノ定  
アル場合ヲ除クノ外組合ノ保險料ヲ受  
領シタル日ノ翌日ニ始マル

第十四條 組合員ハ損害ノ防止輕減ヲ力  
ムルコトヲ要ス但シ之方爲必要又ハ有  
益ナリシ費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ  
組合之ヲ填補ス

第十五條 組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依  
リ保險ノ目的タル漁船ノ構造、設備、漁  
業ノ種類等ニ付重大ナル變更ヲ加ヘン  
トスルトキハ其ノ豫メ組合ニ通知スペシ  
前項ニ依リ登記ヲ爲スベシ

第十六條 組合員ニ對シ其ノ變更ヲ制限シ  
保險ノ目的タル漁船ノ危險ガ其ノ構  
造、設備、漁業ノ種類等ノ重大ナル變  
更ニ因リ著シク增加スル場合ニ於テハ  
組合ハ組合員ニ對シ其ノ變更ヲ制限シ  
其ノ他必要ナル處置ヲ爲サシムルコト  
ヲ得

第十七條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ全部又ハ一部ニ付填補ノ責ヲ免ル  
ノ修繕其ノ他必要ナル處置ヲ爲サシム  
ルコトヲ得

第十八條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第十九條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第二十條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第二十一條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第二十二條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第二十三條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第二十四條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第二十五條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第二十六條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第二十七條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第二十八條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第二十九條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第三十條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第三十一條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第三十二條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第三十三條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第三十四條 保險ノ目的タル漁船ニ付損  
失ノ防止輕減ヲ怠リタルトキ

一 組合員第十五條第一項ノ規定ニ依  
ルコトヲ得

第十八條 組合ハ組合員ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生ジタル損害ヲ填補スル責ニ任ゼズ船長其ノ他漁船ヲ指揮付亦同ジ

第十九條 組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ  
理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ組合員ニ非ザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依ル選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十條 組合員ハ總會ニ於テ各一箇ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ一ヲ超エザル範圍内ニ於テ二箇以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第二十一條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ書面又ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席者ト看做ス但シ同居ノ成年者又ハ組合員ニ非ザレバ代理人タルコトヲ得ズ

第二十二條 組合員ハ總組合員五分ノ一事由ヲ記載シタル書面ヲ理事ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

理事ガ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後二週間以内ニ正當ノ事由ナクシテ總會招集ノ手續ヲ爲サザルトキハ監事其

ノ總會ヲ招集スベシ

第二十三條 組合員ハ三月前ニ豫告ヲ爲スニ非ザレバ脱退スルコトヲ得ズ

第二十四條 組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス但シ第一號ノ場合ニ付テハ定款ヲ以テ別段ノ定ラ爲スコトヲ得

一 保險關係ノ消滅

二 死亡

三 破產

四 除名

第二十五條 組合員ハ組合ヲ脱退シタルトキト雖モ脱退ノ日ノ屬スル事業年度ノ追徴金及保險金額ノ削減ニ對シテハ其ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十六條 行政官廳必要ト認ムルトキハ理事ヲシテ組合ノ事業又ハ財産ニ關スル報告ヲ爲サシメ、組合ノ事業又ハ財產ノ狀況ヲ検査シ、定款ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 組合ノ事業若ハ財產ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲若ハ決議ガ法令、定款若ハ行政官廳ノ命令ニ違反シヲ解任シ、組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第二十八條 民法第四十四條第一項、第五十條、第五十二條第二項、第五十三條、第五十五條第二項、第五十九條、第六十條、第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十六條、第七十條及第七十三條乃至第八十三條、非訟事件

手續法第三十五條第二項、第三十六條、第三十七條ノ二、第一百二十二條、第一百三十六條乃至第一百三十八條、第一百四十條乃至第一百五十一條ノ六、第一百五十條乃至第一百五十七條、第一百七十五條、第一百七十八條及第一百九

三十七條ノ二、第一百二十二條、第一百三十六條乃至第一百三十八條、第一百四十條乃至第一百五十一條ノ六、第一百五十

四條乃至第一百五十七條、第一百七十五條、第一百七十八條及第一百九

十條、第四十二條、第四十四條、第四十七條、第五十一條乃至第五十七條、第六十條、第六十二條乃至第七十二條、第七十四條、第七十九條及第八十一條乃至第八十六條ノ規定ハ漁船保險組合ニ之ヲ準用ス但シ民法第四十五條第三項、第四十八條第一項及第七十七條ノ規定中組合ノ分割ニ關スル規定ヲ除ク

商法第三百八十六條乃至第三百九十五條、第三百九十七條、第三百九十九條乃至第四百條、第四百三條第一項、第四百十二條、第四百十三條、第四百十五條乃至第四百十七條、第六百七十一條第一號乃至第三號、第六百七十二條第一項、第六百七十四條第一項第二項及第六百七十五條乃至第六百七十九條乃至第四百十七條、第六百七十一條第一號乃至第三號、第六百七十二條第一項ノ規定

第一項、第六百七十四條第一項第二項及第六百七十五條乃至第六百七十九條ノ規定ハ本法ニ依ル漁船保險ニ之ヲ準用ス但シ第六百七十二條第一項ノ規定

中六箇月間及第六百七十四條第一項ノ規定中三箇月トアルハ命令ヲ以テ定ムル期間トス

第二十九條 本法ニ依ル漁船保險ノ再保

險事業ハ政府之ヲ管掌ス

第三十條 組合ガ漁船保險ノ引受ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ政府ト組合トノ間ニ再保險關係成立スルモノトス

第三十一條 再保險金額及再保險料ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 組合ハ漁船保險ノ引受ヲ爲シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ對シテ其ノ旨ヲ通知スベシ

第三十三條 左ノ場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ再保險金額ノ全部又ハ一部ノ支拂ノ責ニ任ゼズ

一 組合ガ法令又ハ定款ニ違反シテ填

二 組合ガ填補額ヲ不當ニ認定シテ填

三 組合ガ不正ノ目的ヲ以テ前條ノ規定ニ依ル通知ヲ怠リ又ハ不實ノ通知ヲ爲シタルトキ

四 組合ガハ命令ノ定ムル所ニ依リ委付ニ因リテ取得シタル一切ノ權利ノ行使又ハ處分ニ關スル事項ヲ定メ政府ノ承認ヲ受クベシ

政府ハ前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ組合ニ對シ其ノ再保險金額ノ支拂ヲ爲スモノトス

前項ノ規定ニ依リ再保險金額ノ支拂ヲ受けタル組合ハ委付ニ因リテ取得シタル一切ノ權利ヲ行使シ又ハ處分シテ得タル金額ヨリ之ヲ行使又ハ處分ニ要シタル費用ヲ控除シタル殘額ノ中再保險金額ノ保険金額ニ對スル割合ニ依リテ算出シタル金額ヲ遲滞ナク政府ニ還付スベシ

前三項ノ規定ハ第二十八條ノ規定ニ依リ準用シタル商法第四百十五條及第四

第二章 漁船再保險

第二十九條 本法ニ依ル漁船保險ノ再保

百十六條ノ規定ニ依リ組合ガ權利ヲ取  
得シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 組合ガ再保險ニ關スル事項  
ニ付政府ニ對シテ民事訴訟ヲ提起スル  
ニハ漁船再保險審查會ノ審査ヲ經ルコ

トヲ要ス

前項ノ審査ノ請求ハ時效ノ中斷ニ關シ  
テハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

漁船再保險審査會ニ關スル事項ハ勅令  
ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 商法第三百九十九條、第三  
百九十二條、第三百九十九條、第四百  
條、第四百十二條及第四百十七條並ニ  
家畜保險法第九十九條ノ規定ハ本法ニ  
依ル漁船再保險ニ之ヲ準用ス

第三章 罰則

第三十七條 左ノ場合ニ於テハ漁船保險  
組合ノ理事、監事又ハ清算人ヲ五圓以  
上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一本法ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケザル  
ベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザル

二 一本法ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ  
タルトキ

三 行政官廳又ハ總會若ハ總代會ニ對  
シテ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱  
蔽シタルトキ

四 一本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告  
ヲ差出サズ又ハ其ノ検査ヲ拒ミ其ノ  
他行政官廳ノ命令若ハ處分ニ從ハザ  
ルトキ

五 一本法ニ依ル總會又ハ總代會ノ招集  
ヲ怠リタルトキ

六 組合ノ目的ニ非ザル事業ヲ爲シタ  
ルトキ

七 本法ニ依リ事務所ニ備ヘ置クベキ  
書類ヲ備ヘズ其ノ書類ニ記載スペキ  
事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲  
シ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽  
ヲ拒ミタルトキ

八 本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求  
セザルトキ

九 第二十八條ノ規定ニ依リ準用シタ  
ル家畜保險法第五十四條、第六十四  
條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ違  
反シタルトキ

十 一本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ  
又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

十一 清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シ  
テ辨濟ヲ爲シ又ハ組合財產ノ處分ヲ  
爲シタルトキ

十二 法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金  
ヲ處分シ又ハ追徵金ヲ取立テ若ハ保  
險金額ヲ削減シタルトキ

十三 八條 第三條第二項ノ規定ニ違反  
シタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ過料  
ニ處ス

第十九條 非訟事件手續法第二百六條  
乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料  
ニ之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

漁船再保險特別會計法案

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

入ヲ以テ其ノ歲入トシ再保險金、再保  
險料ノ還付金、借入金ノ償還金及其ノ  
利子、一時借入金ノ利子、事業取扱費  
其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第三條 本會計ニ於テ決算上剩餘金ヲ生  
ズルトキハ之ヲ積立ツベシ

本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金  
ヨリ之ヲ補足スベシ

ズルトキハ之ヲ積立ツベシ

本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金  
ヨリ之ヲ補足スベシ

ズルトキハ之ヲ積立ツベシ

本法ハ昭和十二年度ヨリ之ヲ施行ス

一般會計ハ當分ノ内毎年度豫算ノ定ムル  
金額ヲ本會計ニ繰入ルルコトヲ得

森林火災國營保險法案

森林火災國營保險法

第一條 政府ハ本法ニ依リ森林火災保險  
ヲ行フ

第二條 森林火災保險ニ於テハ政府ガ森  
林ニ付火災ニ因リテ生ズルコトヲ得  
キ損害ヲ填補スルコトヲ約シ保險契約  
者ガ對價トシテ政府ニ保險料ヲ支拂フ

コトヲ約スルモノトス

保險料ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ  
定ム

第三條 保險ノ目的ハ勅令ノ定ムル所ニ  
依リ林齡二十年以下ノ森林トス

第四條 被保險者ハ保險ノ目的ノ所有者  
ニ限ル

第五條 保險料ハ保險契約ノ申込ト同時  
ニ保險期間ノ全部ニ對シ之ヲ拂込ムベ  
シ但シ保險期間ガ一年ヲ超ユル場合ニ  
在リテハ之ヲ分割シテ拂込ムコトヲ  
得

前項但書ノ規定ニ依リ保險料ヲ分割シ  
テ拂込ム場合ニ在リテハ當該保險料期  
間ノ開始ニ至ル迄ニ之ヲ拂込ムベシ其  
ノ拂込ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ爾  
後其ノ效力ヲ失フ

第六條 政府保險契約ノ申込ヲ承諾シタ  
ルトキハ保險證書ヲ作成シ之ヲ保險契  
約者ニ交付ス

保險證書ニ記載スペキ事項ハ命令ヲ以  
テ之ヲ定ム

第七條 保険契約ニ因ル政府ノ責任ハ特約アル場合ヲ除クノ外保険證書作成ノ日ノ翌日ニ始マル

第八條 保険契約者又ハ被保險者ノ詐欺ニ因ル保険契約ハ之ヲ無効トス

第九條 同一ノ目的ノ全部又ハ一部ニ付保険契約ノ申込ノ當時他ノ保険契約存スルトキ又ハ保険契約ノ申込後他ノ保告スベシ同一ノ目的ノ全部又ハ一部ニ付第三者ノ締結シタルトキ若ハ他ノ保險契約ヲ變更シタルトキハ之ヲ政府ニ申告スベシ同一ノ目的ノ全部又ハ一部ニ付タルトキ亦同ジ

第十條 前項ノ申告ヲ怠リタルトキハ政府ハ損害ヲ填補スル責ニ任ゼルコトヲ得

第十一条 保険金額ハ勅令ヲ以テ定ムル標準ニ依り算出シタル金額(標準金額)ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十二条 保険金額ガ標準金額ヲ超過シタルトキハ其ノ超過シタル部分ニ付テハ保険契約ハ之ヲ無効トス

第十三条 同一ノ目的ニ付本法ニ依ル保險契約ノ外他ノ保險契約存スル場合ニ於テ保険金額ノ總額ガ保険價額ヲ超過シタルトキハ政府ノ負擔額ガ損害額ヨリ他ノ保險契約ノ保險金額ト他ノ保險契約ノ保險金額トノ割合ニ依リテ之ヲ定ム但シ其ノ政府ノ負擔額ガ損害額ヨリ他ノ保險者ノ負擔額ヲ控除シタル殘額ヲ超ユル場合ニ於テハ其ノ殘額ヲ以テ政府ノ負擔額トス

第十四条 保険證書ニ記載シタル事項ト異リタル事實アル爲保険料トシテ拂込ミタル金額ガ正當ニ拂込ムベキ保險料

ニ達セザルトキハ拂込ミタル保険料ノ正當ニ拂込ムベキ保険料ニ對スル割合ニ依リ保険金額ヲ減額ス

第十五条 タルトキハ保険金額ノ標準金額ニ對スル割合ニ依リテ損害ヲ填補ス但シ其ノ保險價額ガ標準金額ヲ超過シタルトキハ政府ノ命定ムル所ニ依リ遲滞ナク之ヲ通知スベシ若シ其ノ通知ヲ怠リタルトキハ政府ハ危險增加ノ時ヨリ保險契約ガ其ノ效力ヲ失ヒタルモノト看做スコトヲ得

第十六条 リタルトキハ其ノ契約ヲ承認シタルモノトス

第十七条 被保險者ハ其ノ負擔ニ於テ損害ノ防止ニ力ムルコトヲ要ス

第十八条 保險者ハ當然其ノ契約ノ利益ヲ享受ス

第十九條 保險期間中危險ガ著シク増加シタルトキハ政府ノ命定ムル所ニ依リ保險契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ解除ハ將來ニ向テノミ效力ヲ生ズ

第二十条 保險契約ノ全部又ハ一部ニ付損害ヲ填補シタル場合ニ於テハ爾後其ノ保險料期間内ノ損害填補ニ付テハ前ニ損害ガ生ジタル區域ト其ノ他ノ區域トニ依リ各別ニ計算ス

第二十一条 左ノ場合ニ於テハ政府ハ損害ヲ填補スル責ニ任ゼズ

二 損害ガ保險契約者又ハ被保險者ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生ジタルトキ

二 保險契約者又ハ被保險者ガ損害ノシタルトキハ噴火ニ因リテ生ジタルトキ

三 損害ガ戰争其ノ他ノ變亂、地震又

第三 損害ガ戦争其ノ他ノ變亂、地震又ハ噴火ニ因リテ生ジタルトキ

四 政府ガ保險契約ノ解除ヲ承諾シタ

第五條 保險契約ニ因リテ生ジタル權利義務ヲ承繼ス

第六條 保險期間中危險ガ著シク増加シタルトキハ政府ノ命定ムル所ニ依リ保險契約ノ解除ヲ爲シタルトキハシムルコトヲ得

第七條 同一ノ目的ニ付引續キ五年間政府ノ負擔ニ歸スベキ損害ノ發生ナクシテ保險契約ガ存續シタル場合ニ於テ更ニ契約ガ存續スルトキハ政府ノ命令ノ定ムル所ニ依リ保險料ノ一部ヲ拂戻スコトヲ得保險ノ目的ガ林齡十五年ヲ超ユル場合ニ於テ其ノ目的ニ付林齡二十一年ニ達スル迄政府ノ負擔ニ歸スベキ損害ノ發生ナクシテ契約ガ存續シタルトキ亦同ジ

第八條 前項ノ規定ニ依ル拂戻ノ義務ハ二年ヲ超過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第九條 保險契約者被保險者又ハ保険金ニ付權利ヲ有スル者ガ森林火災保險ニ付權利ヲ有スル者ガ森林火災民事訴訟ヲ提起スルニハ森林火災國營保險審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

第十條 前項ノ審査ノ請求ハ時效ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

第十一條 森林火災國營保險審査會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

第十三條 本法ニ依ル森林火災保險ニガ其效力ヲ失ヒタル場合ニ於テ残存保険期間ガ一年以上ナルトキ

第十四條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險事務ノ一部ヲ市町村ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

第十五條 政府保険料取扱ノ事務ヲ市町村ヲシテ取扱ハシムル場合ニ於テハ其ノ受取り

タル保険料ノ百分ノ五ニ相當スル金額

ヲ其ノ市町村ニ交付ス

前二項中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ准ズベキモノトス

第二十五條 本法ニ依ル森林火災保険ニ關シ本法及本法ニ基キテ發スル命令ニ規定セザル事項ハ商法中損害保險ニ關スル規定ニ從フ

#### 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法ハ勅令ヲ以テ指定スル地區ニ之ヲ施行セズ

#### 森林火災保険特別會計法案

森林火災保険特別會計法案

第一條 森林火災保険事業ヲ經營スル爲特會計ヲ設置シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第一條 本會計ニ於テハ保険料、積立金ヨリ生ズル收入、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ保険金、保険料ノ還付金、無事戻金、借入金ノ償還金及其ノ利子、一時借入金ノ利子、事業取扱費其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第三條 本會計ニ於テ決算上剩餘金ヲ生ズルトキハ之ヲ積立ツベシ  
本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スベシ  
第四條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ借入ヲ爲スコトヲ得ル金額ハ純保険料ヲ以テ保険金及保險料ノ還付金ヲ支辨スルニ不足スル金額ヲ保険料中無事戻金ニ充ツル金額ヲ

以テ無事戻金ヲ支辨スルニ不足スル金額ヲ限度トス

第五條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルベシ

第六條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借りテ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スベシ

第七條 本會計ノ積立金ハ國債ヲ以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得

第八條 政府ハ每年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ

第九條 本會計ノ毎年度歲出豫算ニ於ケル事業費ノ支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ昭和十二年度ヨリ之ヲ施行ス

一般會計ハ當分ノ内毎年度豫算ノ定ムル

○國務大臣(山崎達之輔君) 先づ漁船保險法案ノ理由ヲ先ニ御説明申上ゲマス

第一條 漁船ハ漁業者ノ最モ重要ナル資產ノ一ツデアリマシテ、同時ニ又漁業經營上缺クベカラザル生産ノ要具デアリマス、然ルニ年不測ノ灾害ニ因ル漁船ノ被害ハ、相當ニ

ハ其性質上火災ノ危険ガ甚ダ多イノデアリマシテ、若シ一旦火災ニ罹リマスル時ニハ全ク無價値トナリマシテ、多大ノ投資ト努力ハ一朝ニシテ烏有ニ歸スル次第デアリマス、其結果跡地ノ荒廢ヲ招キ、又森林資源ノ保續ニモ支障ヲ來スノデゴザイマス、

マシテ、被災ニ付テ見マシテモ、毎年平均約一万町歩ヲ超エテ居ルノデアリマシテ、府縣民有林ノ被害ハ甚ダ顯著デアリマシテ、森林ノ成育方種々ノ被災ノ爲メ阻碍サレテ居ルコトガ尠クナ

致シマス、森林ガ公益上茲ニ經濟上重要ナル關係ヲ有スルモノデアルコトハ申ス迄モナイコドデアリマスガ、森林ノ成育方種々ノ被災ノ爲メ阻碍サレテ居ルコトガ専クナ

ハ狹小デアリマス、故ニ陸上ニ於ケル所ノ天然資源ハ、遺憾ナガラ不十分デアルコトハ免レナインデアリマス、併ナガラ其四面環ラス所ノ海ニハ、水產物ガ最モ豐富デアリマシテ、尙且ツ幾多ノ富源ガ其水中ニハ藏サレテ居ルノデアリマス、蓋シ海ハ吾々人類ヲ益スルコト、決シテ陸地ニハ劣ラナ

イデハナイカト本員ハ考ヘラレルノデアリマス、明治天皇ガ明治ノ初年初メテ京都カラ江戸、即チ今ノ此東京ニ行幸遊バサル時ニ、靜岡縣遠州ノ汐見坂ニ駕ヲ駐メサ

レテ、近侍ノ木戸侯ヲ顧ミテ、我國ハ將來海ヲ以テ國富ヲ増進セヨ、重ネテ申上ゲマス、我國ハ將來海ヲ以テ國富ヲ増進セヨト

制度ヲ確立致シマシテ、漁船ノ損害ヲ填補致シマスル歲入歲出ハ、一般會計ト區分致シマシテ、漁業經營ノ改善ヲ期シタイト存ズルノデ、特別會計ヲ設置致シタイト存ズル次第デアリマス、何卒右四案ヲ御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレマスコトヲ希望致スノデアリマス

○議長(富田幸次郎君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許可致シマス——高木糸太郎君

政府ニ於キマシテ之ヲ管掌スルコトト致シタノデアリマス、尙ホ此保險法ニ關聯致シマシテ、特別會計法制定ノ必要ガアルノデアリマス、即チ漁船保險法ニ基キマシテ、政府ノ經營致シマス漁船再保險事業ニ關スル歲入歲出ハ、之ヲ一般會計ト區分致シマス

シテ經理スルコトヲ適當ト認メマスノデ、特別會計ヲ設置致シタイト存ズルノデアリマス

政府ニ對シマシテ私ハ其勞ヲ多トスル者アリマスルガ、本案ニ關聯致シマシテ、本員ハ茲ニ數箇ノ御質問ヲ試ミタイト存ズルノデアリマス

○高木糸太郎君登壇

申ス迄モナク我國ハ四面環海ニシテ陸上ハ狹小デアリマス、故ニ陸上ニ於ケル所ノ天然資源ハ、遺憾ナガラ不十分デアルコトハ免レナインデアリマス、併ナガラ其四面環ラス所ノ海ニハ、水產物ガ最モ豐富デアリマシテ、尙且ツ幾多ノ富源ガ其水中ニハ藏サレテ居ルノデアリマス、蓋シ海ハ吾々人類ヲ益スルコト、決シテ陸地ニハ劣ラナ

イデハナイカト本員ハ考ヘラレルノデアリマス、我國ハ將來海ヲ以テ國富ヲ増進セヨト

而シテ此保險制度ニ關聯致シマシテ、之ニ

カラ拜承致シテ居ルノデアリマス、明治天皇ノ高遠ナル御理想ト御識見ニハ、唯々敬服感激スルノ外ハナインデアリマスガ、爾來我國ノ水産業者ハ一層感激激勵、以テ斯業ノ開發進展ニ努力致シマシタノデ、兎ニ角今日ニ於キマシテハ、年產額内地外地ヲ合シ約五億圓ニ達シマシテ、我ガ同胞九千万國民ノ榮養食料ヲ十分ニ供給致シマシテ、尙且ツ一億圓ノ海外輸出ヲシテ、國際經濟ノ一助トモナツテ居ルヤウナ現狀デアリマス、然ルニモ拘ラズ、政府ノ水産業ニ關スル所ノ施設ハ、從來甚ダ貧弱デアリマスルコトハ、私共ノ常ニ遺憾トスル所デアリマス(拍手)

最近ニ於ケル所ノ例ヲ一一申上ゲマシタモ、我ガ國民中最モ生活程度ノ低イ漁業者ノ爲ニ與ヘラレタル所ノ、大正九年以來長キ間ノ特典デアリマシタ所ノ礦油輸入稅免除ノ如キモ、今將ニ廢サレントスル所ノ運命ニアルノデアリマス、漁業者ノ使用スル油ヘ、農家ニ於ケル肥料ト其經濟上同一關係ニアリマスルガ、庶政一新ヲ唱ヘラレル所ノ現政府ガ、礦油輸入免稅ヲ廢止シテ、漁業者ヲ苦シメルガ如キハ、私ハ其意ヲ得ナイト思フノデアリマス(拍手)併シ國策トシテ燃料問題ノ解決ヲ爲サントスルコトニ、敢テ私ハ異議ヲ挿ム者デハアリマセヌガ、是ガ爲ニ漁業者ノ受クル損害ハ洵ニ甚大デアリマスルノデ、國策ノ爲トハ云ヒナガラ、漁業者ノ爲ニ今少シ農林大臣ハ同情ヲ持ッテ貢ヒタイト私ハ思フノデアリマス(拍手)尙且ツ申上ゲマスレバ、近來南洋方面カラ鑑節ガ非常ニ入ツテ來ル、南洋開發ノ爲ニハ、南洋ノ水產物モ必要デアリマスルケレドモ、ソレガ爲ニ内地ノ業者ハ非常ニ壓迫

ヲ受ケテ居ルノデアリマス、現在總テノ物價ハ一割、二割昂騰シテ居ルニ拘ラズ、本爾來我國ノ水產業者ハ一層感激激勵、以テ斯業ノ開發進展ニ努力致シマシタノデ、兎ニ角今日ニ於キマシテハ、年產額内地外地ヲ合シ約五億圓ニ達シマシテ、我ガ同胞九千万國民ノ榮養食料ヲ十分ニ供給致シマシテ、尙且ツ一億圓ノ海外輸出ヲシテ、國際經濟ノ一助トモナツテ居ルヤウナ現狀デアリマス、然ルニモ拘ラズ、政府ノ水産業ニ關スル所ノ施設ハ、從來甚ダ貧弱デアリマスルコトハ、私共ノ常ニ遺憾トスル所デアリマス(拍手)

以上申上ゲマシタ如ク、政府ノ水產ニ關スル所ノ施設及ビ指導方法ハ、從來甚ダ貧弱デアリマシタケレドモ、併シ我ガ漁業者ノ勇氣ト技倅ニ於テハ、世界何レノ國モ及バナイ、全ク世界的ニ優秀デアリマスルノデ、其產額ニ於テハ世界第一位デアリマス、併ナガラ翻ツテ我國水產業ノ現狀ニ付テ考へマスルナラバ、約三十六万隻ノ漁船ト百六十万人ノ從業者ヲ擁シテ居ルノデアリマシテ、現在ノ營業狀態ハ決シテ樂觀ヲ許サナイノデアリマス、政府ハ今少シ積極的ニ水產ノ振興策ヲ計畫實施ナサレマシテ、海國日本ノ面目ヲ瀆サヌヤウニ御考慮ヲ煩ハシタイト思フノデアリマスルガ、如何デアリマセウカ

昭和十年中ニ於ケル所ノ遭難漁船ハ、私ノ調査ニ依レバ、沈沒船二百三十七隻、破壞船二千六百六十一隻デアリマシタガ、要スルニ漁船ハ先ニ農林大臣モ言ハレタ如ク、漁業者ノ主要財產デアリマスルノデ、之ヲ保険ノ方法ニ依リマシテ、漁船ノ資本化ヲ相成ルノデ、淘ニ結構ナコト存ズルノデ

アリマスハ併ナガラ其遭難ニ依ツテ命ヲ捨テタ所ノ漁業者、從業者其人ニ對シマシテ、何等ノ救濟ノ方法ヲモ、特典ノ途モナイト云フコトハ、私ハ甚ダ遺憾ニ思フノデアリマス、漁業者ハ板一枚下ハ地獄ト謂ハレル者ノ生活ヲ脅威スルコトニナルノデアリマス、政府ハ此南洋開發ノ爲ニ、南洋ノ水產獎勵ハ洵ニ結構デハアルケレドモ、其鑑節輸入ノ如キハ、何トカ之ヲ統制シテ、内地沿岸漁業者ヲ困ラセナイヤウナ方法ハナイノデアリマセウカ、考ヘテ貴ヒタイト思フノデアリマス

以上申上ゲマシタ如ク、政府ノ水產ニ關スル所ノ施設及ビ指導方法ハ、從來甚ダ貧弱デアリマシタケレドモ、併シ我ガ漁業者ノ勇氣ト技倅ニ於テハ、世界何レノ國モ及バナイ、全ク世界的ニ優秀デアリマスルノデ、其產額ニ於テハ世界第一位デアリマス、併ナガラ翻ツテ我國水產業ノ現狀ニ付テ考へマスルナラバ、約三十六万隻ノ漁船ト百六十万人ノ從業者ヲ擁シテ居ルノデアリマシテ、現在ノ營業狀態ハ決シテ樂觀ヲ許サナイノデアリマス、政府ハ今少シ積極的ニ水產ノ振興策ヲ計畫實施ナサレマシテ、海國日本ノ面目ヲ瀆サヌヤウニ御考慮ヲ煩ハシタイト思フノデアリマスルガ、如何デアリマセウカ

昭和十年中ニ於ケル所ノ遭難漁船ハ、私ノ調査ニ依レバ、沈沒船二百三十七隻、破壞船二千六百六十一隻デアリマシタガ、要スルニ漁船ハ先ニ農林大臣モ言ハレタ如ク、漁業者ノ主要財產デアリマスルノデ、之ヲ保険ノ方法ニ依リマシテ、漁船ノ資本化ヲ相成ルノデ、淘ニ結構ナコト存ズルノデ

アリマスハ併ナガラ其遭難ニ依ツテ命ヲ捨テタ所ノ漁業者、從業者其人ニ對シマシテ、何等ノ救濟ノ方法ヲモ、特典ノ途モナイト云フコトハ、私ハ甚ダ遺憾ニ思フノデアリマス、漁業者ハ板一枚下ハ地獄ト謂ハレル者ノ生活ヲ脅威スルコトニナルノデアリマス、政府ハ此南洋開發ノ爲ニ、南洋ノ水產獎勵ハ洵ニ結構デハアルケレドモ、其鑑節輸入ノ如キハ、何トカ之ヲ統制シテ、内地沿岸漁業者ヲ困ラセナイヤウナ方法ハナイノデアリマセウカ、考ヘテ貴ヒタイト思フノデアリマス

以上申上ゲマシタ如ク、政府ノ水產ニ關スル所ノ施設及ビ指導方法ハ、從來甚ダ貧弱デアリマシタケレドモ、併シ我ガ漁業者ノ勇氣ト技倅ニ於テハ、世界何レノ國モ及バナイ、全ク世界的ニ優秀デアリマスルノデ、其產額ニ於テハ世界第一位デアリマス、併ナガラ翻ツテ我國水產業ノ現狀ニ付テ考へマスルナラバ、約三十六万隻ノ漁船ト百六十万人ノ從業者ヲ擁シテ居ルノデアリマシテ、現在ノ營業狀態ハ決シテ樂觀ヲ許サナイノデアリマス、政府ハ今少シ積極的ニ水產ノ振興策ヲ計畫實施ナサレマシテ、海國日本ノ面目ヲ瀆サヌヤウニ御考慮ヲ煩ハシタイト思フノデアリマスルガ、如何デアリマセウカ

最後ニ伺ヒマスガ、先年漁業法ヲ改正シテ、漁業組合ガ經濟行爲ヲ爲シ得ルヤウニナリ得マシタコトハ、漁業組合制度ノ刷新デハアリマスルガ、併ナガラ最モ漁業組合ノ必要ナル所ノ信用事業ヲ營ムコトガ出來ナインデ、漁業組合ハ、其資金ヲ得ル途方ナク、十分ナル活動ガ出來得ナイノデアリマス、全ク畫龍點睛ヲ缺クノ憾ガアル如ク本員ハ感ズルノデアリマス、政府ハ速ニ漁業法ヲ改正シテ、漁業組合ガ信用事業ヲ營ムコトノ出來ルヤウニスルコトガ、漁業組合ノ經濟活動ヲ促スニ最モ必要ナル所爲ダト本員ハ考ヘルガ、農林大臣ハ如何ニ御考ニナリマスカ、尙ホ望ムラクハ進ンデ漁業

組合中央金庫ヲ設立シテ、サウシテ漁村ノ金融改善ヲ圖ルコトガ全ク必要デアルト痛感スル者デアルガ、之ニ對シテ如何ナル御考ヲ持ッテ居ラレマスルカ、以上質問ハ甚ダ簡単デアリマスルガ、御丁寧ナル御答辯ヲ戴キタイト存ジマス(拍手)

(國務大臣山崎達之輔君登壇)

○國務大臣(山崎達之輔君) 高木君ノ御質問ニ御答ヲ申上ゲマス、漁業用ノ燃油免稅廢止ノ件ハ、高木君御承知ノヤウニ、一方燃料國策ノ關係カラ、止ムヲ得ズア、云フコトニナックタ次第アリマスガ、是ガ對策ト致シマシテハ、御承知ノヤウニ來年度豫算ニ二百万圓ヲ計上致シマシテ、漁業者ノ燃料節約ノ施設ヲ講ズルコト致シテ居ル次第デアリマス、是ハ漁業者ニ對シマシテノ影響ヲ受ケテ居ルガ、是等ニ對スル統制ノ方法ヲ考ヘタラバドウカト云フ問題デアリマスルガ、此種ノ自由漁業ニ對シマシテ、如何ナル統制ヲ加ヘルコトガ適當デアルカト云フコトハ、是ハヤリ様ニ依リマスト、漁業ノ發展ヲ阻碍スルノ憂モアリマスノデ、餘程慎重ナル考究ヲ遂ゲタイト考ヘルノデアリマス、一體ニ水産業ガ世界第一ノ地位ヲ占メテ居ルニ拘ラズ、水產政策ノ振興上、マダ遺憾ノ點ガアルノデハナイカト云フ御意見デアリマスガ、仰セノ如ク我國ノ水產業ガ、全ク世界第一ノ地位ヲ占メテ居ルコトハ、高木君ノ仰セノ通リデアリマスガ、尙ホ此水產業ノ重要性ニ鑑ミマ

シテ、政府ノ施設ニ於テモ出來得ルダケノ力ヲ拂フベキモノデアルト信ジテ居ルノデアリマス、遭難者ノ遺族扶助ノ關係ニ付テ、マダ附屬勅令ノ發布ガナイガト云フ御意見デアリマスガ、如何ニモ其通リデアリマシテ、此問題ニ付キマシテハ、只今種々研究ヲ重ネテ居ル所デアリマス、次ハ漁船適用ノ範圍デアリマスガ、是ハ高木君ノ御希望ノヤウニ、小漁船ヲ主トシテ取扱ヒタイト考ヘテ居ルノデアリマス、大漁船ニ付キマシテハ、必シモ此保険ニ依リマセヌデモ、一般ノ民營保険ニ依ツテ其途ガアル譯デアリマスカラ、今回ノ計畫ハ主トシテ小漁船ニ重キヲ置キタイト云フ考デアリマス、漁業組合トノ關係ハ、漁業組合ハ保険組合ト同様ニ一つノ法人デアリマスケレドモ、何分ニモ保険事業ト云フ特殊事業ノ性質ニ鑑ミマシテ、別種ノ組合ト致スコトガ適當デアルト考ヘマシテ、法制上ハ獨立ノ組合ト致シマシタガ、實際ノ運用ニ於テハ、無論漁業組合ト保険組合トハ脈絡相通ズベキモノデアルコトハ申ス迄モナイコトデアリマス、今回ノ漁船保険ニ付テ業種別ヲ認メルカト云フ御質疑デアリマシタガ、是ハ業種別組合ヲ認メル考デアリマス、漁業金融ノ問題ハ多年ノ宿題デゴザイマシテ、私トシテモ何等カノ解決ヲ致シタイト云フコトヲ苦慮致シテ居ル問題デアリマス、今期議會マズニハ遂ニ間ニ合ハナカッタ譯デアリマスガ、此問題ニハ相當ノ解決ヲ見ルヤウニ努力ヲ致シタイト云フコトダケヲ、此處デハッキリ申上ゲテ宜シトイ思ヒマス

○高木桑太郎君 簡單デアリマスカラ此席カラ御許ヲ願ヒマス

○議長(富田幸次郎君) 中村嘉壽君  
(中村嘉壽君登壇)

○中村嘉壽君 漁業保險法案ノ提出ニ當リマシテ、私ハ政府當局ニ此案ニ關スルコト、竝ニ水產業一般ニ付テ質問ヲ試ミタイト思フノデアリマス、此法案ガ出來ルニ至リマシタ徑路ハ、隨分長イ間ノ歴史ガアリマスノデ、コニマデ抱チ上ゲタコトニ對シマシテハ、私ハ政府當局ニ感謝スル次第デゴザイマスガ、尙ホ此案ヲ以テ満足スルコトガ出來ナイノデアリマス、是ハ損失保險ノ形ニナッテ居リマシテ、年々掛金ヲ出シテゴザイマスガ、尙ホ此案ヲ以テ満足スルコト云フヤウナ風ニナッテ居リマスカラ、金融ノ途致シマシタガ、實際ノ運用ニ於テハ、無論斯ウ云フヤウナ風ニナッテ居リマスカラ、金融ノ途ト致シマシテハ、效果ガ極メテ薄イノデアリマス、私ハ之ヲ恰モ生命保険ノ如ク、假ニ漁船ガ十箇年ノ存續期間ガアルトスルナラバ、十箇年ノ間ニ總價額ノ一割ナリ八分ナリノ掛金ヲ出サセテ置イテ、丁度養老保険ノ如ク、十箇年ノ後ニ若シ掛ケ通ツタナラバ、其八割ナリ或ハ全額ナリヲバ返シテヤルト云フ方法ニスル御考ハナイカ、

斯クノ如ク致シマスト、是ガ擔保ニナッテ金融ノ途モ付イテ行クノデアリマス、隨テ此保険業ガ發達スルコトニモ非常ニ都合ガ好イノデアリマス、サウ云フ御考ハナイカドウカ、今ナイト致シマシタナラバ、左様ナ方法ヲ御執リニナル御考ハナイカドウカト云フコトデアリマス、今一つハ、之ヲ民營ニシタ方ガ、斯様ナ仕事ハ民營合ラズ、其點ヲ明ニシテ戴キタイト思フノデアリマス

○議長(富田幸次郎君) 宜シウゴザイマス

○議長(富田幸次郎君) 尚ホ御尋シタイ點モアリマスルガ、委員會ニ讓ルコトニ致シマシテ、私ノ質問ハ是デ打切ルコトト致シマスルガ、委員會ニ讓ルコトニ致シマス、又斯ノ如キ組合ヲコトハ、咄嗟ノ間ニハ中々困難ナコトデゴザイマスカラ、先づ東京ニ一ツノ斯様ナ組合ヲ持ヘテ、其東京ノ組合ニ對シマシテハ、何レノ方面ノ人々モ參加ガ出來ルヤウナ風ニナサル御考ハナイカドウカ、サウ云フ風ニサレルコトヲ私ハ希望スルヤウナ次第デアリマス、尙ホ只今高木君ノ質問ニ對シマシテ、農林大臣ハ小サナ船ニマデ之ヲ適用スル積リダト云フ御考デゴザイマシタ、日本ニハ約三十六万艘ノ船舶ガゴザイマス、其中ノ九割以上ト云フモノハ、十噸以下ノ船デゴザイマシテ、是等方金融ノ途ニ最モ困難ヲ感じテ居ルノデアリマスルガ、往々ニシテ斯様ナ金融ノ途ヲ講ズルノニハ、登簿シタモノノデナケレババイカヌト云フヤウナ、制限ガ置カレテ居ルノデアリマス、十噸以上デモ小サナ漁船ト言ヘバ言ヒ得ルノデアリマスガ、不登簿ノ船ニ對シマシテモ、之ヲ適用ナサル積リデアルカドウカ、其點ヲ明ニシテ戴キタイト思フノデアリマス

○議長(富田幸次郎君) 漁船保險ニ付テハソレダケニ致シマシテ、更ニ私ガ御伺致シタイト思ヒマスコトハ、近來沿岸漁業ガ頻ニ荒廢サレマシテ、漁民ハ泣イテ居ルノデアリマス、是ガ更生ノ爲ニハ、政府モ多年御研究ニ相成ツテ居ルコトデゴザイマスルガ、マダ其實ガ擧シテ來ナイ、第一ニ此途ヲ開カントスルノニハ、先程高木君ノ御話ガアリマシタ通リニドウシテモ金融ノ途ヲ講ジテヤラナケレバナラヌ、農村モ勿論金融ノ途ニ不自由ヲ感ジテ居リマスルガ、農村ヨリモ更ニ一層不自由ヲ感ジテ居ルノガ

漁村デアリマス、唯彼等ハ沈黙ノ抗議ヲシテ居ルダケデアッテ、外ノ人々ノヤウニ政府ニ懇ヘルコトガ少イト云フガ爲ニ、之ヲ黙ツテ見テ居ルト云フコトハ、極メテ不親切ナコトダト私ハ考ヘマス、昭和八年ニ漁業組合法ガ改正サレマシテ、是ガ經濟活動ヲスルコトガ出來ルヤウニハ相成リマシタケレドモ、先程高木君ノ言ハレタコトニモ含ンデ居タト思ヒマスルガ、信用行爲ガ餘リ多ク行ハレナイ、例ヘバ外ノ信用組合ハ貯金ヲ預カルコトガ出來ルヤウニナッテ居リマスケレドモ、漁業組合ハ左様ナコトガ出來ナイ、隨テ融通スペキ財源ヲ持タナイト云フコトニ相成ツテ居ルノデゴザイマスルガ、之ニ對シテ適切ナ改正ヲ御加ヘニナル御考ハナイカドウカ、之ヲ御伺シタイノデアリマス

是ト關聯致シマシテ、過日モ豫算分科會ニ付テ、政府ハモット力ヲ御用ヒヲ願ヒタイデ私ハ質問致シマシタガ、吾々ハ多年ノ間中央金庫ノ設立ヲ要望シテ居ルノデアリマス、併ナガラマダ政府ハ之ヲ設立ナサルマデノ運ビニ行ツテ居ナイヤウデアリマス、外ニ何カ之ニ代ルヤウナ金融機關ヲ作ルト云フ御考ガアッテ、左様ナ案モ御立テニナッタヤウデアリマスケレドモ、是ハ吾々カラ考ヘマスト云フト、適切ナ方法デゴザイマセヌカラ、吾々ハ之ニ參加スルコトヲ止メシタ、モット完全ナ金融ノ途ヲ作ツテ戴キタコトハ、近來日本ノ遠洋漁業ト云フモノハ、スルガ、此議場ニ於テ明確ナル御答辯ヲ私ハ御願スル次第アリマス

ソレカラモウ一つハ、水產物ノ輸出増進ニ付テ、政府ハモット力ヲ御用ヒヲ願ヒタイト云フコトデゴザイマス、日本ノ水產物ハ近來有ユル國々ニ進出致シテ居リマス、今カラ三十年以前ニハ僅ニ二三百万圓デアッタモノガ、今日デハ約三億圓ニ達シテ居リマシテ、是ガ進出ハ殆ド限リナク爲シ得ルノデアリマス、亞弗利加ニ、南亞米利加ニ、南洋ニ、或ハ歐羅巴ノ方面ニ、容易ナラヌ進出ヲシテ居リマスルガ、マダ此進出ハ之ヲ以テ止リト致サズシテ、恐ラク之ヲ五倍

シテ、其開拓スペキ財源ガ、我ガ日本ニ於テハ限テ、モット完全ナ金融ノ途ヲ作ツテ戴キタコトモ、一ツノ仕事デハゴザイマスルケレドモ、世界ノ何レノ國ニモ競争相手ガナクシテ、サウシテ制限ヲ多く受ケナイヤウナ、詰リ弱イ處ニ盛ニ突進シテ行クコトガ、戰ガ上手デアルト同時ニ、商賣ガ上手デアルノデアリマスカラ、ドウカ斯様ナ攻撃シタ結果ハ、餘リニ多ク獲ツテ參リマシテ、サウシテ濫賣ヲ試ミルヤウニナッタ、一體日本内地ノ鰐漁業ノ產額ト云フモノハ、鰐節ニ致シマシテ約十五万樽アル、此十五万樽ノモノガ產出サレマシテ、漸ク其漁業者達ノ生活標準ト云フモノガ維持サレテ居ルノデアリマス、然ルニ今南洋カラ約是ガ三割四割ニ相當スル所ノ四五万樽ノモノガ、年々輸入サレ、移入サレルヤウナコトニ相成リマシタ、南洋節ト申シマスト云フト、元ハ六掛カ五掛位デ賣レタモノデゴザイマスケレドモ、今日ハ恰好カラ申シマスト云フト、而モ我ガ日本人ハ、海國男子ト致シマシテハ、稀ニ見ル勇敢ナル國民デアリ、而

シテ彼等ハ漁業ノ術ニ於テ、製造ノ術ニ於テ、外ノ何人ニモ劣ラナイ技術ヲ持ツテ居ルノデアリマス、世界ノ水產額ヲズット擧げシテ居ル、南水洋ニ於テ此數年ノ間少カラズ努力ヲシテ居ルコトヘ御承知ノ通リデゴザイマスルガ、斯様ナ南進ラン、北進ラスルニ付キマシテハ、ソレ相當ノ機關ガ必要デアリマス、又ソレ相當ノ根據地ガ必要デゴザイマスルガ、政府ハ斯様ナ根據地ヲ御設ケニナル御考ガアルカドウカ、若シ無イトスルナラバ、之ヲバ作ルコトニ考ヲ致シテ、促進シテ戴キタイト云フコトヲ私ハ希望スルノデアリマス

ソレカラモウ一つハ、水產物ノ輸出増進ニ付テ、政府ハモット力ヲ御用ヒヲ願ヒタイト云フコトデゴザイマス、日本ノ水產物ハ近來有ユル國々ニ進出致シテ居リマス、今カラ三十年以前ニハ僅ニ二三百万圓デアッタモノガ、今日デハ約三億圓ニ達シテ居リマシテ、是ガ進出ハ殆ド限リナク爲シ得ルノデアリマス、亞弗利加ニ、南亞米利加ニ、南洋ニ、或ハ歐羅巴ノ方面ニ、容易ナラヌ進出ヲシテ居リマスルガ、マダ此進出ハ之ヲ以テ止リト致サズシテ、恐ラク之ヲ五倍シテ、其開拓スペキ財源ガ、我ガ日本ニ於テハ限テ、モット完全ナ金融ノ途ヲ作ツテ戴キタコトモ、一ツノ仕事デハゴザイマスルケレドモ、世界ノ何レノ國ニモ競争相手ガナクシテ、サウシテ制限ヲ多く受ケナイヤウナ、詰リ弱イ處ニ盛ニ突進シテ行クコトガ、戰ガ上手デアルト同時ニ、商賣ガ上手デアルノデアリマスカラ、ドウカ斯様ナ攻撃シタ結果ハ、餘リニ多ク獲ツテ參リマシテ、サウシテ濫賣ヲ試ミルヤウニナッタ、一體日本内地ノ鰐漁業ノ產額ト云フモノハ、鰐節ニ致シマシテ約十五万樽アル、此十五万樽ノモノガ產出サレマシテ、漸ク其漁業者達ノ生活標準ト云フモノガ維持サレテ居ルノデアリマス、然ルニ今南洋カラ約是ガ三割四割ニ相當スル所ノ四五万樽ノモノガ、年々輸入サレ、移入サレルヤウナコトニ相成リマシタ、南洋節ト申シマスト云フト、元ハ六掛カ五掛位デ賣レタモノデゴザイマスケレドモ、今日ハ恰好カラ申シマスト云フト、而モ我ガ日本人ハ、海國男子ト致シマシテハ、稀ニ見ル勇敢ナル國民デアリ、而

分ラナクナツテ來タ、味ニ於テ、品質ニ於テ、相當ナ懸隔ハアルノデアリマスケレドモ、見テクレニ於テハ餘リ相違ガナイコトニナツノデアリマス、故ニ場合ニ依ツテハ南洋ノ鰹節ガ靜岡ニ來、鹿兒島ニ來、或ハ土佐ニ來マシテ、ソレ等ノモノト同ジヤウニナツテ來ルガ、一方ニ於テハ此南洋節ハ安ク賣ツテモ宜イト云フ傾向ガアリマスノデ、低イ安イモノニサレテシマヒマシテ、内地ノ漁業者ハ遂ニ競争ニ堪ヘラレナクナリマス、而モ一面ニ於テ南洋ノ鰹漁業者ガ、ソンナラ儲カツテ居ルカト中々儲カラナイ、最初品物ガ達フノデ賣レナカツタモノガ、是ト競争スルニハ非常ナ努力ヲ必要トシマスカラ、其爲ニ非常ニ困憊ヲ來シテ居ルヤウナ状態デアリマス、今ニシテ是ガ統制ヲ圖ツテ、日本ノ需要供給ヲ相一致セシメナケレバ、私ハ内地ニ於ケル漁業者ト云フモノハ、悉ク倒産シナケレバナラヌ状態ニアルト信ズルノデアリマス(拍手)私ハ嘗テ樺太ニ蟹ガ獲レマシタ時ニ、其當時ノ當局ニ對シテ色々々ナ警告ヲ致シマシタ、何等統制ノ方法ヲ講ジナイデ、何デモカソニモ漁業ヲ許スト云フコトニナレバ、濫獲ニ陥リ、遂ニ悉ク倒産シナカツタ、幾許モナク樺太ノ蟹漁業ト云フモノハ、殆ド全滅ニ近イマデニ沒落シタノデアリマス、又今問題ニナツテ居リマス機船底曳漁業ニ致シマシテモ其通リデレモ、適當ナ統制ヲ加ヘナカツタ、許可ヲ欲スル者ガアルナラバ、悉ク之ヲ許可ヲスル云フヤウナコトデアリマシタカラ、遂

ニ今日デハ如何ニモドウニモ仕様ガナクシテ、統制ヲシナケレバナラヌ羽目ニナツテ來タ、統制ヲシヨウトスルト云フト、失業者ヲ生ズル、之ニ國家ガ補償ヲシナケレバナラスト云フヤウナ面倒ニ直面シテ來ルノデアリマス、外ノコトニ對シテモ悉クサウニアリマス、外ノコトガアルノデアリマスルカラ云フヤウナコトガアルノデアリマスルカラ、  
〔議長退席 副議長著席〕

今ノ中ニ統制ヲシナケレバナラヌ、聞クガ如クンバ、此南洋ノ鰹漁業ニ對シマシテハ丁度近頃出來マシタ南洋拓殖會社ガ、某々ノ會社ヲ買收致シマシテ、サウンシテ是ガ統制ヲ圖ラウト云フ計畫デアルト云フコトモ聞キマスルガ、ソレガ事實デアルカ、事實デナイカハ別問題ト致シマシテ、洵ニ是ガ藉ヲ働イテ、或ハ士人ヲ打擲シ、彼等ニ暴行ヲ加ヘ、若クハ木ヲ伐ルト云フヤウナコトガアル、是ガ日比兩國ノ親善ヲ傷ツケルコトハ少カラザルモノガアルト云フコトヲ知ッタノデアリマス、之ニ對シテハ政府當局ハ相當ノ考慮ヲ爲サルト云フ必要ガアルト考ヘマスガ、ドウ云フヤウナ御考デアリマスカ、御伺致シタノデアリマス

最後ニ私ハ政府ニ御伺致シタトイ思ヒマス、私ハ只今申上ダマシタヤウニ、我ガ日本ノ水產ハ全ク世界ニ冠絶スルモノガアル、其數量ニ於テ、世界ノ全產額ノ半バヲ占メ、之ニ從事スル漁業者ノ數モ亦半バヲ占ム、即チ農林水產省ト爲サル御考ガアリマス、即チ農林大臣ガ居ラレマセヌノデ、已ムラ得マセヌカラ、山崎農林大臣ガ代ツテ御答ヲ下サッテモ宜イト思フノデアルカドウカ、御考ガナイトスルナラバ、一ツ考慮シテ戴イテ、是非左様ナ日ガ一日モ近クナツテ、現實ニ日本ノ水產ト云フモノヲ世界ニ知ラシムルノミナラズ、之ヲ立國ノ基本ノ一つシテ戴カソコトヲ切ニ御願致ス次第デアリマス(拍手)

〔國務大臣山崎達之輔君登壇〕

○國務大臣(山崎達之輔君) 中村君ニ御答テコトハ、近來我國ト比律賓トノ關係ハ益々親シク相成リマシテ、洵ニ比律賓ト云フ所ハ我國ニ取リマシテハ、產業ノ上カラ申シマシテモ、其他色々ノ上カラ申シマシテモ、吾々ガ先進國ト誇ルコトガ出來、又水產物ノ販路ト云フモノハ、何レノ國ニモ何等ノ排斥ヲ受ケルコトナクシテ、進入スルコトガ出來ルト云フ、斯様ナ大キナ立場ヲ持ツテ居ル、此大キナ立場ヲ持ツテ居ル者ガ、我ガ日本ノ當局者ニ於テ、ソレ相當ノ施設ヲ施サレテ居レドモ、適當ナ統制ヲ加ヘナカツタ、許可ヲスル者ガアルナラバ、悉ク之ヲ許可ヲスル云フヤウナコトデアリマシテ、之ヲ長期ト致スコトハ、色々

ノ不便ガアリハセヌカト云フコトヲ恐レル

ノデアリマス

第二ハ、民營ニスルノ意思ガナイカト云フ御問デアリマスガ、無論此法律ニ依ッテ民營ヲ除斥致シテ居ル譯デヘナインデアリマスガ、實際問題トシテハ、小漁船等ニ付テ民營保険ハ事實行ヒ難イノデ、ソコデ之ニ付テ國營ヲ立案ヲ致シタ譯デアリマシテ、謂ハバ一種ノ簡易保険ミタキナ性質ノモノデアル譯デアリマス、次ノ御尋ガ一寸ハッキリ致シマセヌデゴザイマシタガ、高木君ニ御答申上ゲマシタヤウニ、此制度ヘ小漁船ヲ主トシテ考ヘテ居ル、大漁船ハ、是ハ民營保険デ宜イノデヤナイカ、斯ウ考ヘテ居ル譯デアリマスガ、或ハ御問ト少シ喰違ヒガアルカモ知レマセヌガ、間違テ居リマシタラバ御訂正ヲ願ヒタイト思ヒマス

ソレカラ水產金融ノ問題ハ、中村君多年

御熱心ノ問題デアリマシテ、私共ハ此問題ハ成ベク早ク相當ノ解決ヲ得タイト考ヘテ居ルノデアリマシテ、出來ルタゲノ努力ヲ

拂ヒタイト存ジテ居リマス、ソレカラ北洋漁業ナドノ根據地ヲ建設スル考ガナイカト云フ問題デアリマスガ、是ハ御承知ノヤウニ、從來カラ農林省トシテハ一ツノ案ヲ持ッテ居ルノデアリマス、アリマスガ、之ニハ可ナリ多額ノ經費ヲ要スル關係モアリマシテ、マダ實現ノ緒ニ就イテ居リマセヌガ、何等カノ方法ヲ以テ、少クトモ北洋漁業ノ根據地問題ヲ解決スルノ途ハナイカト考ヘテ、マスルガ、是ハ中村君ノ仰セニナリマシタ、我國トシテハ最モ發展ノ餘地ノアル問題デアリマシテ、殊ニ最近數年或ハ亞

弗利加デアルトカ、南米デアルトカ、或ハ南洋海峽植民地其他ニ對シマシテ、水產物營ヲ除斥致シテ居ル譯デヘナインデアリマスガ、實際問題トシテハ、小漁船等ニ付テ民營保険ハ事實行ヒ難イノデ、ソコデ之ニ付テ國營ヲ立案ヲ致シタ譯デアリマシテ、謂ハバ一種ノ簡易保険ミタキナ性質ノモノデアル譯デアリマス、次ノ御尋ガ一寸ハッキリ致シマセヌデゴザイマシタガ、高木君ニ御答申上ゲマシタヤウニ、此制度ヘ小漁船ヲ主トシテ考ヘテ居ル、大漁船ハ、是ハ民營保険デ宜イノデヤナイカ、斯ウ考ヘテ居ル譯デアリマスガ、或ハ御問ト少シ喰違ヒガアルカモ知レマセヌガ、間違テ居リマシタラバ御訂正ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(入江海平君) 拓務省關係ノ事項ニ付キマシテ御答辯申上ゲマス、第一ニ、遠洋漁業ノ發達ガ最近非常ニ目覺シクナリマシタノデ、之ヲ助成スル爲ニ根據地ヲ作成スル必要ガアルト思フガ、政府ノ之ニ對話ヲ聞クコトガアリマス、併シは色々取調ペマシタ結果、詰リ公海ト領海ノ境ニ於キマシテ、往々紛擾ヲ來シタ云フヤウナコトガアルノデアリマシテ、此點ニ付キマシテハスル考ハドウカ、斯ウ云フ御質問ノヤウデアリマシタガ、北洋漁業ト云フコトニ付キマシテハ、只今農林大臣カラ御答ニナリマシテ、マダ實現ノ緒ニ就イテ居リマセヌガ、何等カノ方法ヲ以テ、少クトモ北洋漁業ノ根據地問題ヲ解決スルノ途ハナイカト考ヘテ、マスルガ、是ハ中村君ノ仰セニナリマシタ、我國トシテハ最モ發展ノ餘地ノアル問題デアリマシテ、殊ニ最近數年或ハ亞

南洋海峽植民地其他ニ對シマシテ、水產物營ヲ除斥致シテ居ルノデアリマス、國家ノ爲ニ幸慶ニ考ヘテ居ルノデアリマス、是ハ益、是ガ増進ニ政府トシテモ努力ヲ致シタイト考ヘテ居リマシテ、甚ダ小サイ施設デアリマスガ、來年度ニ於テ多少斯様ナ點ニ役立チタイト云フ意味ヲ以テ、或ル計畫ヲ致シテ居ルヤウナ次第デアリマス、ソレカラ南洋漁業ノ統制ト比律賓トノ關係ハ、是ハ拓務省側カラ御答ヲ願ヒタイト存ジマス、最後ノ農林水產省ト云フ名前ニ改メル考ハナイカト云フコトデゴザイマスガ、是ハ篤ト考究ヲ致シテ見タイト存ジマス(拍手)。

(政府委員入江海平君登壇)

○政府委員(入江海平君) 拓務省關係ノ事項ニ付キマシテ御答辯申上ゲマス、第一ニ、遠洋漁業ノ發達ガ最近非常ニ目覺シクナリマシタノデ、之ヲ助成スル爲ニ根據地ヲ作成スル必要ガアルト思フガ、政府ノ之ニ對話ヲ聞クコトガアリマス、併シは色々取調ペマシタ結果、詰リ公海ト領海ノ境ニ於キマシテ、往々紛擾ヲ來シタ云フヤウナコトガアルノデアリマシテ、此點ニ付キマシテハスル考ハドウカ、斯ウ云フ御質問ノヤウデアリマシタガ、北洋漁業ト云フコトニ付キマシテハ、只今農林大臣カラ御答ニナリマシテ、マダ實現ノ緒ニ就イテ居リマセヌガ、何等カノ方法ヲ以テ、少クトモ北洋漁業ノ根據地問題ヲ解決スルノ途ハナイカト考ヘテ、マスルガ、是ハ中村君ノ仰セニナリマシタ、我國トシテハ最モ發展ノ餘地ノアル問題デアリマシテ、殊ニ最近數年或ハ亞

南洋海峽植民地其他ニ對シマシテ、水產物營ヲ除斥致シテ居ルノデアリマス、國家ノ爲ニ幸慶ニ考ヘテ居ルノデアリマス、是ハ益、是ガ増進ニ政府トシテモ努力ヲ致シタイト考ヘテ居リマスガ、其場合ニハ無論中村君ノ仰セノ如ク、全ク新規ノモノバカリデナク、既設ノモノデ極メテ不完備ナモノヲ完成スルト云フ計畫モ、當然包含シテ進メタイト通リ全ク同感デアリマス、今日南洋方面ニ於ケル漁業ガ非常ニ發達シマシテ、其結果

○副議長(岡田忠彦君) 宜シウゴザイマス

○中村嘉壽君 簡單デゴザイマスカラ、此席カラ發言ヲ御許シ願ヒマス

○副議長(岡田忠彦君) 村岡吾一君

○村岡吾一君 私モ只今提案ニナッテ居リマスル漁船保險法案ニ付キマシテ、其内容竝ニ政府ノ漁村ニ對スル認識、及ビ是方對策ニ關シテ、一、二御尋ヲ致シタイト思フノデアリマス、此法案ニ現レマシク所ニ依ツテ、政府當局ノ漁村ニ對スル認識ヲ伺ヒマスルト云フト、如何ニモ其態度ガ冷淡デアル、恐ラク漁村ノ今日ノ窮状ヲ、現内閣ハ御承知デハナイノカトサヘ思ハザルヲ得ナインデアリマス(拍手)故ニ私ハ此案ヲ通ジテ現レタル當局ノ御意思ニ依リマシテ、果シテ如何ナル根本對策ガアルカト云フコトヲ御尋致シタイノゴザイマス、此法案ニ依リマスルト云フト、成程此漁船保險法案ハ多年ノ懸案デアリ、吾々政黨ニ於キマシテモ特ニ研究ヲ致シ、又御承知ノ如ク本會議ヲ通過シタコトモアル所ノ此事柄デアル、デアリマスルカラシテ、此保険法案ヲ此度現内閣ガ茲ニ御提案ニナッタ云フコトヘ、吾々ハ結構ニ存ズルノデアリマス、併ナガラ之ヲ實施致シマシテ、此案ノ内容ニ依リマスルト、單ニ是ヘ漁業家ニ對シテ相互保険ヲヤラセルト云フコトニ止シテ居ルノデアル、此事ニ關シテ政府即ち國庫ヘ何等出捐ヲスルノデハナイノデアリマス、金ヲ出國ノ漁村ノ窮状ト云フモノハ、實ニ申上ゲヤウノナイ悲慘ナ狀態ニ陷ツテ居ルノデアリマス、之ニハ色々原因ガアリマシテ、今更之ヲ申上ゲル迄モアリマセヌガ、元々漁業者、殊ニ此小漁業者デ申シマスレバ、船ガ一艘アツテ丈夫ナ腕ヲ持テ居レバ、樽ヲ漕ギ、帆ヲ操ツテ生活ガ出來タノデアリマス、所ガ近年ニナリマシテヘ、小サイ漁船

デモ、之ニ對シテ發動機ヲ備ヘナケレバヤツテ行ケナイト云フコトニナッテ、發動機ヲ附ケル、其金ガ少イカラ借金ヲ致ストカ、賴母子ヲ取ツテ、辛ウジテ之ヲ附ケテ、他ノ者ニ遅レザルヤウニ漁業ニ從事スルト云フヤウナ有様デアルノデアリマス、而シテ斯様ニシテ漁業ニ從事シテ、漁獲致シマシタ鮮魚即チ漁獲物ハ、ドウ云フ風ニ賣レルカト申シマスルト、是ガ非常ニ安イノデアル、是ハ近時地方ガ非常ニ疲弊ヲ致シマシテ、殊ニ農村ガ疲弊ヲ致シマシタ結果トシテ、魚ヲ買フ人ガ少イ、魚ガ賣レナイ、市場ニ持ツテ參リマスルト、殆ド買主ノ方ノ意見デ叩キ賣リデ買取ラレテシマフ、斯ウ云フノガ實情デアリマスルカラシテ、益漁村ガ貧乏ニナッタモノト私ハ思フ、又政治的ニ見マスルト、近時農村問題ヘヤカマシイ、而シテ話ノ序ニハ農山漁村トカ、或ハ農漁山村トカ言ウテ、農村ノ附合ヒニ漁村ト云フ名前ヤ話ヘ出マスケレドモ、實際ニ於テ行ハレルノハ、農村ノ味方ガ多數デアリマシテ、漁村ノ味方ヲスル人々ハ少イ、其勢力ガ微弱デゴザイマスルカラシテ、彼等ノ叫ビハシテ之ヲ助成サレルト云フヤウナコトニハアル、此事ニ關シテ政府即ち國庫ヘ何等出捐ヲスルノデハナイノデアリマス、金ヲ出シテ之ヲ助成サレルト云フコトニ止シテ居ルノデアリマス、之ニハ色々原因ガアリマシテ、今更之ヲ申上ゲル迄モアリマセヌガ、元々漁業者、殊ニ此小漁業者デ申シマスレバ、船ガ一艘アツテ丈夫ナ腕ヲ持テ居レバ、樽ヲ漕ギ、帆ヲ操ツテ生活ガ出來タノデアリマス、所ガ近年ニナリマシテヘ、小サイ漁船

ト云フヤウナモノガ出來タケレドモ、漁村ハ多年要求シテ居ルニ拘ラズ是方出來奈イ、只今農林大臣ノ言明ニ依リマスルト、是ハ近クヤルト云フヤウニ仰シヤツタト私ハ聽母子ヲ取ツテ、辛ウジテ之ヲ附ケテ、他ノ者ニ遅レザルヤウニ漁業ニ從事スルト云フヤウナ有様デアルノデアリマス、而シテ斯様ニシテ漁業ニ從事シテ、漁獲致シマシタ鮮魚即チ漁獲物ハ、ドウ云フ風ニ賣レルカト申シマスルト、是ガ非常ニ安イノデアル、是ハ近時地方ガ非常ニ疲弊ヲ致シマシテ、殊ニ農村ガ疲弊ヲ致シマシタ結果トシテ、魚ヲ買フ人ガ少イ、魚ガ賣レナイ、市場ニ持ツテ參リマスルト、殆ド買主ノ方ノ意見デ叩キ賣リデ買取ラレテシマフ、斯ウ云フノガ實情デアリマスルカラシテ、益漁村ガ貧乏ニナッタモノト私ハ思フ、又政治的ニ見マスルト、近時農村問題ヘヤカマシイ、而シテ話ノ序ニハ農山漁村トカ、或ハ農漁山村トカ言ウテ、農村ノ附合ヒニ漁村ト云フ名前ヤ話ヘ出マスケレドモ、實際ニ於テ行ハレルノハ、農村ノ味方ガ多數デアリマシテ、漁村ノ味方ヲスル人々ハ少イ、其勢力ガ微弱デゴザイマスルカラシテ、彼等ノ叫ビハシテ之ヲ助成サレルト云フヤウナコトニハアル、此事ニ關シテ政府即ち國庫ヘ何等出捐ヲスルノデハナイノデアリマス、金ヲ出シテ之ヲ助成サレルト云フコトニ止シテ居ルノデアリマス、之ニハ色々原因ガアリマシテ、今更之ヲ申上ゲル迄モアリマセヌガ、元々漁業者、殊ニ此小漁業者デ申シマスレバ、船ガ一艘アツテ丈夫ナ腕ヲ持テ居レバ、樽ヲ漕ギ、帆ヲ操ツテ生活ガ出來タノデアリマス、所ガ近年ニナリマシテヘ、小サイ漁船

ト云フヤウナモノガ出來タケレドモ、漁村ハ多年要求シテ居ルニ拘ラズ是方出來奈イ、只今農林大臣ノ言明ニ依リマスルト、是ハ近クヤルト云フヤウニ仰シヤツタト私ハ聽母子ヲ取ツテ、辛ウジテ之ヲ附ケテ、他ノ者ニ遅レザルヤウニ漁業ニ從事スルト云フヤウナ有様デアルノデアリマス、而シテ斯様ニシテ漁業ニ從事シテ、漁獲致シマシタ鮮魚即チ漁獲物ハ、ドウ云フ風ニ賣レルカト申シマスルト、是ガ非常ニ安イノデアル、是ハ近時地方ガ非常ニ疲弊ヲ致シマシテ、殊ニ農村ガ疲弊ヲ致シマシタ結果トシテ、魚ヲ買フ人ガ少イ、魚ガ賣レナイ、市場ニ持ツテ參リマスルト、殆ド買主ノ方ノ意見デ叩キ賣リデ買取ラレテシマフ、斯ウ云フノガ實情デアリマスルカラシテ、益漁村ガ貧乏ニナッタモノト私ハ思フ、又政治的ニ見マスルト、近時農村問題ヘヤカマシイ、而シテ話ノ序ニハ農山漁村トカ、或ハ農漁山村トカ言ウテ、農村ノ附合ヒニ漁村ト云フ名前ヤ話ヘ出マスケレドモ、實際ニ於テ行ハレルノハ、農村ノ味方ガ多數デアリマシテ、漁村ノ味方ヲスル人々ハ少イ、其勢力ガ微弱デゴザイマスルカラシテ、彼等ノ叫ビハシテ之ヲ助成サレルト云フヤウナコトニハアル、此事ニ關シテ政府即ち國庫ヘ何等出捐ヲスルノデハナイノデアリマス、金ヲ出シテ之ヲ助成サレルト云フコトニ止シテ居ルノデアリマス、之ニハ色々原因ガアリマシテ、今更之ヲ申上ゲル迄モアリマセヌガ、元々漁業者、殊ニ此小漁業者デ申シマスレバ、船ガ一艘アツテ丈夫ナ腕ヲ持テ居レバ、樽ヲ漕ギ、帆ヲ操ツテ生活ガ出來タノデアリマス、所ガ近年ニナリマシテヘ、小サイ漁船

ト云フヤウナモノガ出來タケレドモ、漁村ハ多年要求シテ居ルニ拘ラズ是方出來奈イ、只今農林大臣ノ言明ニ依リマスルト、是ハ近クヤルト云フヤウニ仰シヤツタト私ハ聽母子ヲ取ツテ、辛ウジテ之ヲ附ケテ、他ノ者ニ遅レザルヤウニ漁業ニ從事スルト云フヤウナ有様デアルノデアリマス、而シテ斯様ニシテ漁業ニ從事シテ、漁獲致シマシタ鮮魚即チ漁獲物ハ、ドウ云フ風ニ賣レルカト申シマスルト、是ガ非常ニ安イノデアル、是ハ近時地方ガ非常ニ疲弊ヲ致シマシテ、殊ニ農村ガ疲弊ヲ致シマシタ結果トシテ、魚ヲ買フ人ガ少イ、魚ガ賣レナイ、市場ニ持ツテ參リマスルト、殆ド買主ノ方ノ意見デ叩キ賣リデ買取ラレテシマフ、斯ウ云フノガ實情デアリマスルカラシテ、益漁村ガ貧乏ニナッタモノト私ハ思フ、又政治的ニ見マスルト、近時農村問題ヘヤカマシイ、而シテ話ノ序ニハ農山漁村トカ、或ハ農漁山村トカ言ウテ、農村ノ附合ヒニ漁村ト云フ名前ヤ話ヘ出マスケレドモ、實際ニ於テ行ハレルノハ、農村ノ味方ガ多數デアリマシテ、漁村ノ味方ヲスル人々ハ少イ、其勢力ガ微弱デゴザイマスルカラシテ、彼等ノ叫ビハシテ之ヲ助成サレルト云フヤウナコトニハアル、此事ニ關シテ政府即ち國庫ヘ何等出捐ヲスルノデハナイノデアリマス、金ヲ出シテ之ヲ助成サレルト云フコトニ止シテ居ルノデアリマス、之ニハ色々原因ガアリマシテ、今更之ヲ申上ゲル迄モアリマセヌガ、元々漁業者、殊ニ此小漁業者デ申シマスレバ、船ガ一艘アツテ丈夫ナ腕ヲ持テ居レバ、樽ヲ漕ギ、帆ヲ操ツテ生活ガ出來タノデアリマス、所ガ近年ニナリマシテヘ、小サイ漁船

カ、或ハ其他ノ低利資金ノ融通ト云フカ、何カ方法ヲ設ケラレマシテ、漁船保険制度ヲ通ジテ漁村ヲ救濟シ、其更生ノ緒ニ就カシムル御意思ヘナイカト云フコトヲ、私ハ第一ニ御尋シタイト思フノデアリマス

第二ハ、ヤハリ此漁村對策ニ關係ヲ致シマスル所ノ、漁業用燃料油ニ對シマスル所ノ、輸入稅ノ賦課ノ對策ニ付テ、政府ノ御所見ヲ御尋シタインデアリマス、先刻高木君カラモ一言御尋ガアリマシテ、政府ノ御答モ承リマシタガ、私ハ今少シ此點ニ付テ詳シク申上ゲマシテ、深ク政府ノ御留意ヲ煩ヘシ、且ツ適當ナル對策ヲ樹テテ下サル御考ヘナイカト云フコトニ付テ、御尋シテ見クイト思フノデアリマス、政府へ今回勘定率法ヲ改正セラレマシテ、從來ハ無税率アツタ、無稅デ輸入セラレテ居リマシタ所ノ燃料原油ニ對シ、新ニ一頓ニ付テ十圓三十錢ノ課稅ヲシヨウ、斯ウ云フコトニセラレテ居ルノデアリマス、是ハ實ニ漁業者ニ取リマシテハ、重大ナル負擔トナルノデアリマス、此關係ヲ取調べテ見マスルニ、昭和十年度ノ漁業用ノ重油ノ消費量ト云フモノハ、大凡四千八萬噸ト云フコトニナッテ居リマス、其中デ三十三万噸ト云フモノハ、今迄無稅デ外國カラ輸入セラレテ居ノデアル、サウシテ殘リノ十五万噸ト云フモノハ、所謂内地カラ產出セラレル所ノ重油ト、他ニ輸入重油ヲ原料トシテ精製セラレタ、其滓トデモ云ヒマスルモノガアルノデアリマシテ、斯様ニ三十三万噸ト十五万噸ト合セテ、四十八万噸ト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、今此輸入セラレム所ノ重油ニ、一噸約十圓ノ稅ガ課セラレント云フコトニナリマスルト、之ニ依リマシテ

三百三十萬圓ト云フ重油ノ値段ガ高クナルガソレダケ高クナリマスルカラシテ、漁ガ買フ此油ガ一頓十圓高クナル、隨テ三百三十萬圓ト云フ負擔ガ増ス、ソレノミデナイ、外ニ只今申シマシタ國產油其他ノ十五万噸、此十五万噸ガ又輸入サレル重油ノ値ガ上ルニ連レテ、同率ニ市價ガ高クナリマスカラ、此金額ダケデモヤハリ一頓十圓トスレバ、十五万噸デ百五十萬圓ニナルノデアリマス、故ニ結局漁業者ノ負擔ノ增加致シマスル金高ハ、約四百八十萬圓ノ巨額ニ達スルノデアリマス、即チ政府ノ收入ハ三百三十萬圓ノ關稅ノ增加ニ依ル收入ニ止マリマスケレドモ、内地ノ石油業者ガ、所謂寢テ居ツテ、百五十萬圓ノ利益ヲ被ルト云フコトニナルト私ハ考ヘルノデゴザイマス、是ハ我國ノ漁業者ノ全體カラ見マシタ概數デゴザイマスルガ、更ニ之ヲ漁業者各自ノ負擔關係ニ付テ調べテ見我國ノ發動機附船ト云フモノハ、其隻數ガ五万七千五百六十四隻トナッテ居リマス、其總馬力ハ六十八万三千二百七十馬力、全體ノ約八割ニナッテ居ルヤウデゴザイマス、而モ又此發動機附船ノ大キサヲ見マスト、只船ノ馬力ハ五十四万八千四百三十馬力、當ル所ノモノハ、實ニ二十噸未満ノ細カイ漁船デアルノデアリマス、所謂不登簿船ト言ハヌルモノハ小漁業者デアリ、漁村デアルタ如ク、今日我國ノ中デ一番貧乏シテ居リマシテ、最モ悲慘ナル生活ヲシテ居リマスルモノハ小漁業者デアリ、漁村デアルノ立前カラシマスナラバ、漁村ノ救濟、小漁業者ノ救濟ト云フコトハ、眞先キニ著手セラルベキモノデアルニ拘ラズ、現内閣ノ

三家ノ生計ヲ辛ウジテ立テ居リマスル所ノ貧乏漁師デアルノデアリマス、此漁船一艘ノ重油消費量ハ、平均一箇年間ニ八噸餘リト云フコトニナッテ居リマス、是ハ極メテ小サク見積ツタノデアリマスルガ、一噸ニ付テ約十圓ノ油代ガ上ガリマスト、即チ年間ニ八十圓ノ負擔増加ニナル勘定デアリマスは極メテ低ク見積ツタノデアリマス、付テ約十圓ノ油代ガ上ガリマスト、即チ年間ニ八十圓ノ負擔増加ニナル勘定デアリマス、活ヲ爲シ得ル所ノ小漁業者ノ負擔ニ、年額八十圓ハ極メテ大ナル負擔ノ激増デアリマス、而モ此負擔ノ激増ハ之ヲ他ノ方ニ轉嫁スルト云フ途ガナイノデアリマス、今日ヤカマシク言ハレテ居リマスアノ乗合自動車ス、而モ此負擔ノ激増ハ之ヲ他ノ方ニ轉嫁スルト云フ途ガナイノデアリマス、假ニ他ノ生活ノ人ニスルト云フ途ガナイノデアリマス、今日ヤカマシク言ハレテ居リマスアノ乗合自動車ス、而モ此負擔ノ激増ハ之ヲ他ノ方ニ轉嫁スルト云フ途ガナイノデアリマス、是ハ我國ノ漁業者ノ全體カラ見マシタ概數デゴザイマスルガ、更ニ之ヲ漁業者各自ノ負擔關係ニ付テ調べテ見我國ノ發動機附船ト云フモノハ、其隻數ガ五万七千五百六十四隻トナッテ居リマス、其總馬力ハ六十八万三千二百七十馬力、全體ノ約八割ニナッテ居ルヤウデゴザイマス、而モ又此發動機附船ノ大キサヲ見マスト、只船ノ馬力ハ五十四万八千四百三十馬力、當ル所ノモノハ、實ニ二十噸未満ノ細カイ漁船デアルノデアリマス、所謂不登簿船ト言ハヌルモノハ小漁業者デアリ、漁村デアルタ如ク、今日我國ノ中デ一番貧乏シテ居リマスルモノハ小漁業者デアリ、漁村デアルノ立前カラシマスナラバ、漁村ノ救濟、小漁業者ノ救濟ト云フコトハ、眞先キニ著手セラルベキモノデアルニ拘ラズ、現内閣ノ

テ一家ノ生計ヲ辛ウジテ立テ居リマスルノヤウナ有様デアリマスト致シマスナラバ、實ニ疲弊困憊ニ陥リマシテ、僅ニ露命ヲ繋イデ居ル所ノ漁民ノ懷中カラ、更ニ年額百圓ニ近イ大金ヲ出サセルト云フコトニ相成ルノデアリマシテ、サナキダニ生活不安ニ陥テ居リマス漁民ノ生命ヲ奪フガ如キモノデアルト言フモ過言デハナイト私ハ信ズル、實ニ亂暴ト申シマセウカ、或ハ冷酷ト言ヒマセウカ、沙汰ノ限りデアルト言ハザルヲ得ナイノデアリマス、假ニ他ノ生活ノ人ニスルト云フ途ガナイノデアリマス、今日ヤカマシク言ハレテ居リマスアノ乗合自動車ス、而モ此負擔ノ激増ハ之ヲ他ノ方ニ轉嫁スルト云フ途ガナイノデアリマス、是ハ我國ノ漁業者ノ全體カラ見マシタ概數デゴザイマスルガ、更ニ之ヲ漁業者各自ノ負擔關係ニ付テ調べテ見我國ノ發動機附船ト云フモノハ、其隻數ガ五万七千五百六十四隻トナッテ居リマス、其總馬力ハ六十八万三千二百七十馬力、全體ノ約八割ニナッテ居ルヤウデゴザイマス、而モ又此發動機附船ノ大キサヲ見マスト、只船ノ馬力ハ五十四万三千二百七十馬力、當ル所ノモノハ、實ニ二十噸未満ノ細カイ漁船デアルノデアリマス、所謂不登簿船ト言ハヌルモノハ小漁業者デアリ、漁村デアルタ如ク、今日我國ノ中デ一番貧乏シテ居リマスルモノハ小漁業者デアリ、漁村デアルノ立前カラシマスナラバ、漁村ノ救濟、小漁業者ノ救濟ト云フコトハ、眞先キニ著手セラルベキモノデアルニ拘ラズ、現内閣ノ



入ッテ居ル村モアルノデアリマシテ、是ハ決シテ漁村ヲ除外スルトカ、或ハ冷淡ニ取扱ッテ居ルトカ云フ譯デハアリマセヌ、又燃料問題カラ起リマスル稅ノ改正ノ問題ハ、是ハ前内閣ニ於キマシテ、燃料國策ノ見地カラ樹テラレマシタ關係デアリマシテ、只今ノ内閣トシマシテモ、是ハ燃料國策ノ大キナ見地カラ、已ムヲ得ザルコトデアルト認メテ居ル譯デアリマシテ、サリトテ漁業者ノ蒙リマスル不利益ハ、是ハ村岡君ノ御心配ニナリマスヤウニ、甚ダ氣ノ毒ニ考ヘルノデアリマスカラ、セメテハ其損害ヲ輕減スルガ爲ノ一つノ對策トシテ、當分年々二百万圓餘ノ金ヲ政府カラ支出ヲシテ行カウ、斯ウ云フ考ヲ持ツテ居ル譯デアリマスガ、無論是デハ十分デナイト云フ御疑ハ、是ハ御無理デナイト思ヒマスガ、此問題ハ直接保險ノ問題ト關係ノアル問題モゴザリシマスカラ、尙ホ又今日ハマダ三人バカリ御通告ガアル譯デアリマシテ、私共ハ漁村ノ爲ニ成ベク此法律案ノ成立ヲ希望致マセヌカラ、只今ノ燃料問題ニ關スル應答シマスカラ、只今ノ燃料問題ニ關スル應答ス

○村岡吾一君 此席ヨリ御許シヲ願ヒマス  
○副議長(岡田忠彦君) 許シマス  
○村岡吾一君 大臣ノ御答辯デ大體諒承ヲ致シマシタガ、燃料問題ニ關スル點ニ付キマシテハ、何卒政府トシテ一段ノ御考慮ヲ願ヒタイ、即チ燃料問題ノ爲ニ、一面ニ於テ得ラスル者ガアリ、一面ニ於テハ本件ノ漁業者ノ如キ損ラスル者ガアル、之ヲ政府ノ力デ調節ラシテ戴キタイト云フコトヲ、私ハ強ク希望ヲ致シマシテ私ノ質問ヲ終リ

○松尾四郎君 私ハ只今上程ニナッテ居リ内閣トシマシテモ、是ハ燃料國策ノ見地カラ、已ムヲ得ザルコトデアルト認メテ居ル譯デアリマシテ、サリトテ漁業者ノ内閣トシマシテモ、是ハ燃料國策ノ大キナ見地カラ、已ムヲ得ザルコトデアルト認メテ居ル譯デアリマシテ、サリトテ漁業者ノ蒙リマスル不利益ハ、是ハ村岡君ノ御心配ニナリマスヤウニ、甚ダ氣ノ毒ニ考ヘルノデアリマスカラ、セメテハ其損害ヲ輕減スルガ爲ノ一つノ對策トシテ、當分年々二百万圓餘ノ金ヲ政府カラ支出ヲシテ行カウ、斯ウ云フ考ヲ持ツテ居ル譯デアリマスガ、無論是デハ十分デナイト云フ御疑ハ、是ハ御無理デナイト思ヒマスガ、此問題ハ直接保險ノ問題ト關係ノアル問題モゴザリシマスカラ、尙ホ又今日ハマダ三人バカリ御通告ガアル譯デアリマシテ、私共ハ漁村ノ爲ニ成ベク此法律案ノ成立ヲ希望致マセヌカラ、只今ノ燃料問題ニ關スル應答シマスカラ、只今ノ燃料問題ニ關スル應答ス

○副議長(岡田忠彦君) 許シマス  
○村岡吾一君 大臣ノ御答辯デ大體諒承ヲ致シマシタガ、燃料問題ニ關スル點ニ付キマシテハ、私ハ質問ニ於テハ本件ノ漁業者ノ如キ損ラスル者ガアル、之ヲ政府ノ力デ調節ラシテ戴キタイト云フコトヲ、私ハ強ク希望ヲ致シマシテ私ノ質問ヲ終リ

○松尾四郎君 私ハ只今上程ニナッテ居リ内閣トシマシテモ、是ハ燃料國策ノ見地カラ、已ムヲ得ザルコトデアルト認メテ居ル譯デアリマシテ、サリトテ漁業者ノ内閣トシマシテモ、是ハ燃料國策ノ大キナ見地カラ、已ムヲ得ザルコトデアルト認メテ居ル譯デアリマシテ、サリトテ漁業者ノ蒙リマスル不利益ハ、是ハ村岡君ノ御心配ニナリマスヤウニ、甚ダ氣ノ毒ニ考ヘルノデアリマスカラ、セメテハ其損害ヲ輕減スルガ爲ノ一つノ對策トシテ、當分年々二百万圓餘ノ金ヲ政府カラ支出ヲシテ行カウ、斯ウ云フ考ヲ持ツテ居ル譯デアリマスガ、無論是デハ十分デナイト云フ御疑ハ、是ハ御無理デナイト思ヒマスガ、此問題ハ直接保險ノ問題ト關係ノアル問題モゴザリシマスカラ、尙ホ又今日ハマダ三人バカリ御通告ガアル譯デアリマシテ、私共ハ漁村ノ爲ニ成ベク此法律案ノ成立ヲ希望致マセヌカラ、只今ノ燃料問題ニ關スル應答シマスカラ、只今ノ燃料問題ニ關スル應答ス

○副議長(岡田忠彦君) 許シマス  
○村岡吾一君 大臣ノ御答辯デ大體諒承ヲ致シマシタガ、燃料問題ニ關スル點ニ付キマシテハ、何卒政府トシテ一段ノ御考慮ヲ願ヒタイ、即チ燃料問題ノ爲ニ、一面ニ於テ得ラスル者ガアリ、一面ニ於テハ本件ノ漁業者ノ如キ損ラスル者ガアル、之ヲ政府ノ力デ調節ラシテ戴キタイト云フコトヲ、私ハ強ク希望ヲ致シマシテ私ノ質問ヲ終リ

○副議長(岡田忠彦君) 許シマス  
○村岡吾一君 大臣ノ御答辯デ大體諒承ヲ致シマシタガ、燃料問題ニ關スル點ニ付キマシテハ、私ハ質問ニ於テハ本件ノ漁業者ノ如キ損ラスル者ガアル、之ヲ政府ノ力デ調節ラシテ戴キタイト云フコトヲ、私ハ強ク希望ヲ致シマシテ私ノ質問ヲ終リ

○松尾四郎君 私ハ只今上程ニナッテ居リ内閣トシマシテモ、是ハ燃料國策ノ見地カラ、已ムヲ得ザルコトデアルト認メテ居ル譯デアリマシテ、サリトテ漁業者ノ内閣トシマシテモ、是ハ燃料國策ノ大キナ見地カラ、已ムヲ得ザルコトデアルト認メテ居ル譯デアリマシテ、サリトテ漁業者ノ蒙リマスル不利益ハ、是ハ村岡君ノ御心配ニナリマスヤウニ、甚ダ氣ノ毒ニ考ヘルノデアリマスカラ、セメテハ其損害ヲ輕減スルガ爲ノ一つノ對策トシテ、當分年々二百万圓餘ノ金ヲ政府カラ支出ヲシテ行カウ、斯ウ云フ考ヲ持ツテ居ル譯デアリマスガ、無論是デハ十分デナイト云フ御疑ハ、是ハ御無理デナイト思ヒマスガ、此問題ハ直接保險ノ問題ト關係ノアル問題モゴザリシマスカラ、尙ホ又今日ハマダ三人バカリ御通告ガアル譯デアリマシテ、私共ハ漁村ノ爲ニ成ベク此法律案ノ成立ヲ希望致マセヌカラ、只今ノ燃料問題ニ關スル應答シマスカラ、只今ノ燃料問題ニ關スル應答ス



ハナケレバナラヌ、併ナガラ高イ所ニ決メルト、故意ニ保険金ヲ詐取スルヤウナ惡い人情ガ起ルノデヘナイカ、而モ惡い人情ガ起ツク場合ニ、近所隣リニ山林ヲ持ッテ居ル者ガ非常ナ迷惑ヲ致シマスカラ、之ニ對スル對策ガアルカドウカ、更ニ私ノ考ヲ申上ゲマスルト、少クトモ其保険金ヲ渡ス時ニヘ、再造林ヲ條件トスルト云フコトヲ、法文化シテ戴ク必要ガアルト考ヘマスルノデ、此點ニ對スル御所見ヲ伺ヒタイノガ第一點デアリマス、第三點ハ、今日ノ此農村經濟ノ梗塞セル金融ヲ圓滑ナラシムル爲ニ、本案ノ目的ニナツテ居リマスルノハ二十年生以下デアリマスガ、二十年生以上ノ山林ヲモ本案ノ恩恵ニ浴スルヤウニ、範圍ヲ擴大シテ貴ヒタイ、其意思アリヤ否ヤ、以上三點ガ私ノ質問デアリマス

(國務大臣山崎達之輔君登壇)  
○國務大臣(山崎達之輔君) 御答ヲ申上ゲマス、保険料ヲ成ベク低廉ニ致シマスルコトハ、松尾君ノ御希望ノヤウニ大切ナ點デアリマス、デ政府ニ於テ或ル年間ハ一般會計ヨリ繰入ヲ致ス考デアリマスガ、併ナガラ漁船保險ノ場合ニモ申上ダマシタヤウニ、斯様ナモノハ飽マデ獨立經理ヲ本體トベキモノデアリマスカラ、一通り保険加入者ノ數ガ或ル程度ニ達シマスマデ、政府ガ年年若干ノ繰入ヲシテ行カウ、相當ノ保険加入者ガ出來マシタ以後ハ、成ベク獨立經理デヤツテ行クヤウニシタイ、斯ウ云フ考デアリマス

スト云フト、第一保険料ガ高ク相成ル譯デアルノミナラズ、或ハ松尾君ノ御懸念ニナリマス通リニ、放火其他ノ不正ナ手段モ随定メルト云フコトハ宜シクナイト思ヒマス、本案ニ於キマシテハ、大體再造林ノ實費ヲ得セシメルト云フコトヲ目標トシテ、保険金額ハ考ヘテ居ルノデアリマスガ、唯松尾君ノ仰シヤツタヤウニ、植林ノ實費ヨリモ時價ノ方ガ却テ安い場合モアルト云フ御話デアリマスガ、左様な場合ニハ——火災ニ罹リマシタ場合ニハ、時價ニ依テ損害額ヲ算定スル、斯ウ云フコトニナル譯デアリマス、再造林ヲ條件トスル旨ヲ、法ニ於テ規定シタラバト云フ御意見デアリマスガ、之ヲ強制致シマスコトハ如何カト考ヘラレマスノデ、再造林ヲ督勵スルト云フ方針ヲ以テ行キタイ、但シ保険金額ハ前申上ダマシタヤウナ、再造林ノ實費ヲ目標トシテ居ル、斯ウ云フコトニ御諒解ヲ願ヒタイノデアリマス

(國務大臣山崎達之輔君登壇)  
○黒田壽男君 私ハ漁船保險法案ト森林火災國營保險法案トニ付テ質問シタイトイマス、私ノ質問ヲ提出致シマス、是カラ質問ノ要旨ヲ申述ベテ見タイト思フノデアリマス、此法案ニ關シマシテ、私ハ唯一點ダケ質問ヲ提出致シマス、是カラ質問先ヅ漁船法案ニ關スル質問ヨリ始メタイト思ヒマス、此法案ニ關シマシテハ、私ハ唯一點ダケ質問ヲ提出致シマス、是カラ質問ノ要旨ヲ申述ベテ見タイト思フノデアリマス、私ノ質問ノ要旨ハ、政府ハ漁業勞働者ノ業務上ノ死亡、災害等ニ備ヘル爲ニ、漁業組合ガ保險金全額ヲ負擔スル所ノ、漁業勞働者災害保險法ヲ實施スル意思ハナシカト云フ點ニアルノデアリマス、此度提案サレマシタ所ノ漁船保險ノ施行ハ、成程本法案理由書ニ記載サレマシテアル如ク、漁業ノ改良發達ノ上ニ必要ナコトデアルト私ハ思フノデアリマス、併ナガラソレハ直接ニハ漁船所有者ヲ利スルニ止マルノデアリマス、然ルニ漁船ノ遭難ニ當リマシテ、是等ノ漁船ニ乗組ンデ居リマス所ノ漁夫、リマス、然ルニ漁船ノ遭難ニ當リマシテ、是等ハ多クハ自ラ船舶ヲ有シナイ所ノ勞働者デアリマスガ、此漁業勞働者ガ漁船ノ遭難ニ當リマシテ、其貴重ナル生命ヲ多數ニ失フテ居ルト云フ事實ヲ、私ハ指摘セザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)今最近一年間ノ數字ヲ舉ゲテ見マスト、遭難漁船ノ乗組員ノ死亡又ハ行方不明ノ數ハ、昭和元年ニ六百六人、二年ニ五百二十人、三年ニ四百七十二人、四年ニ四百十九人、五年ニ四百七十九人、六年ニ千百七十四人、七年ニ五百六

付キマシテハ、マダ承服出來ヌ點ガ多々アリマスガ、私ハ此點ヘ他ノ機會ニ再質問ヲ致スコトニ致シマシテ、私ノ質問ハ是デ終リマス

○副議長(岡田忠彦君) 黒田壽男君  
(黒田壽男君登壇)  
○黒田壽男君 登壇  
付キマシテハ、マダ承服出來ヌ點ガ多々アリマスガ、私ハ此點ヘ他ノ機會ニ再質問ヲ致スコトニ致シマシテ、私ノ質問ハ是デ終リマス

九人、八年ニハ七百十四人、九年ニハ五百九十六人ト云フ工合ニナツテ居ルノデアリマシテ、此九間ノ合計ガ五千五百四十人ニ上ツテ居ルノデアリマス、此統計ノ示ス如ク、多キ年ハ千人ヲ越エ、少イ年モ四百人ヲ下ラザル數ニ於キマシテ、平均一年ニ六百十六人ノ漁業勞働者ガ遭難ノ爲ニ、其貴重ナル生命ヲ失フテ居ルノデアリマス、此外ニ負傷者ガ如何ニ多數ニ上ツテ居ルカト云フコトヘ、申上ゲル必要ハナイト思フノデアリマス、此中ノ大多數ハ甚ダ低イ賃銀デ、危險ナ業務ニ從事シテ居ルノデアリマシテ、此者ガ死亡或ハ負傷致シマスレバ、忽チ其家族又ハ遺族ガ生活ノ窮乏ニ陥レラレルノデアリマス、然ルニ斯ル場合ニ對シマシテ、今日ハ全國的ナ救濟ノ制度ガ殆ドナイト言ツテ宜シイ、全然皆無デアルトハ申シマセヌケレドモ、斯ノ如キ場合ニ對スル施設ガ甚ダ不備デアリマシテ、此點ヲ從來ノ儘ニ放置シテ置キマシテハ、私ノ考ヘル所ニ依レバ、眞ニ漁村ノ更生ヲ爲シ、或ハ漁業ノ經濟施設ガ備ハレリトハ申シ得ナイト考ヘルノデアリマス(拍手)

今日勞働者ノ業務上ノ負傷竝ニ死亡ニ付テハ、或ハ工場法アリ、或ハ勞働者災害扶助法アリ、或ハ鑛山法等ガ施行セラレテ居リマシテ、斯ル場合ニ關スル規定ガ設ケラレテ居ルノデアリマス、然ルニ漁業勞働者、鑛山勞働者ニ對シマシテハ、甚ダ不十分デハゴザイマスガ、幾分カノ對策ガ講ゼラレテ居ルノデアリマス、然ルニ漁業勞働者ニ對シマシテハ、斯様ナ場合ノ對策ガ全然ナインデアリマス、僅ニ漁業組合デ遭難救恤ノ事業ヲヤツテ居ルモノモアリマスケレドモ、其數ヲ調査致シテ見マスト、

昭和八年ニ於キマシテ全實行組合數二千五百十九ノ中、僅ニ三百十四ニ過ギナインデアリマス、之ニ依リマシテ全漁業從業者ノ遭難救恤ニマデ及ブト云フコトハ到底不可能デアリマシテ、斯ル制度ガ自然ニ増加シテ、遭難救恤制度ガ全國的ニ實現セラレルヲ待ツト云フガ如キ方法ニ依テハ、到底ソレニ依リマシテ此對策ノ完成ヲ見透スコトハ出來ナインデアリマス（拍手）今日資本主義ノ社會ニ於キマシテハ、形ニ現レ、或ハ形ニ現レナクトモ、財產トシテ價値ノアルモノト認メラレルモノガ、國家ニ依リマシテ厚ク保護セラレテ居リマシテ、尊イ人ノ命モソレガ財產ト結ビ付カナイ限り、其生命ハ物ヨリモ輕視セラレルト云フ傾向ガアルノデアリマス（拍手）私ハ船ノ災害ソレ自身ヨリモ、漁夫ノ生命ニ關スルコトガ、先ニ問題ニナラナケレバナラスト考ヘテ命ニ對スル施設ガ急務デアルト云ノガ私ノ見解デアリマス、此無保護ノ、而モ危險ノ多イ漁業勞働者ニ對シマシテ、死亡傷害ニ備ヘル爲ニ業主、漁業組合ガ保險金全額ヲ負擔スル所ノ漁業勞働者災害保険ヲ實施スルノガ當然デアルト考ヘルノデアリマス（拍手）政府ハ六十万ノ多數ヲ算ヘル漁撈被傭者ニ對シマシテ、此保險法ノ實施スベキ意思アリヤ否ヤ、私ハ此點ヲ御尋致スノデアリマス、漁村ノ窮乏狀態、其眞ノ更生ノ爲ニ何ヲ爲スベキカト云フコトニ付キマシテハ、私モ多クノ質問事項ヲ持ッテ居リマスケレドモ、是ハ今日申述ヘナイコトニ致シマシテ、保險法タル本法案ノ性質ニ鑑ミマシテ、此保険ニ對スル問題ヲ一點ダケ取上げ、本法

案ニ對シマスル質問ト致スノデアリマスシテ、若干ノ質問ヲ提起致シタイト思ヒマス、第一ニ、政府ハ何故ニ本議會ニ農作物保険法案ヲ提出シナカッタノデアルカ（拍手）其法案ヲ提出セザリシ理由ハ、或ハ農作物保険ノ急速ナル實施ヲ必要トシナイトト云フヤウナ見解ニ立タレタノデアリマセウカ、或ハ法案作成ノ準備ガ完了シナイカラト云フノデアリマセウカ、或ハ保険實施ノ爲ノ財源ガ得ラレナイト云フコトニ、其理由ガ求メラレルノデアリマセウカ、或ハ其他ニ理由ガアルノカ、私ハ之ヲ明ニシテ置キタイト思フノデアリマス（拍手）

次ニ此質問ヲ爲ス理由ヲ申述ベマス、政府ガ農業保險ノ一部トシテ、森林火災保險ヲ實施シヨウストル意圖ハ、私ハ決シテ反對致シマスルナラバ、現在ノ我國ノ農村ノ狀態ヨリ見マシテ、農業保險トシテヘ、先考ヘテ居リマス、併ナガラ吾々ノ見解ヲ以テ致シマスルナラバ、現在我國ノ農村ノ緊急ニ必要トサレテ居ル所デハナイカト考ヘルノデアリマス（拍手）元來政府ノ近來ノ農村政策ヲ通觀致シマスルト、或ハ自力更生運動ノヤリ方ニ致シマシテモ、或ハ救濟金・補助金ノ支出ニ致シマシテモ、租稅ノ負擔ノ輕減ト云フ問題ニ致シマシテモ、其方法ニ於テ、又事實ノ上ニ結果トシテ現レタス、尙ホ森林保險ニ付キマシテハ、民間會議ニ於キマシテモ、既ニ之ヲ行ツテ居ル位デアリマシテ、農作物ニ付テ行ハレテ居ナス、尙ホ森林保險ニ付キマシテモ、其様ナ著書ヲ五十年以前大藏省ノ儲トシテ日本ニ参考レテ居ルノデアリマス、救濟ノ程度ノ最モ多イ勤労農民ニ關スル保險ヲ後ニ致保險法體系ノ完成方法ニ關シマシテノ不公平ガ現レテ居ルノデアリマス、救濟ノ程度ヲ後回シニスルト云フコトハ、此處ニモ亦ノ最モ多イ勤労農民ニ關スル保險ヲ後ニ致シテ居ルノデアリマシテ、農村救濟ノ立場カラ見ルトキ、何故ニ斯様ナ方法ヲ執ルノカト云フコトノ理解ニ苦シムノデアリマス、尙ホ森林保險ニ付キマシテハ、民間會議ニ於キマシテモ、既ニ之ヲ行ツテ居ル位デアリマシテ、農作物ニ付テ行ハレテ居ナス、尙ホ森林保險ニ付キマシテモ、其様ナ著書ヲ五十年以前ニ著シマシテ、社會ニ對シ農業保險ニ關スル注意ヲ喚起シ、當局ヲシテ之ヲ行ハシムベク鞭撻サレテ居タノデアリマス、又明治三十二年ニ施行サレマシタ舊商法ノ中ニ云云條文ガ明記シテアリマシテ、斯ル保險ニ對スル途ガ開カレテ居タノデアリマス、又議會ニ於キマシテハ、是ハ諸君ノ御承知ノ如ク、第四十六議會ニ齋藤宇一郎氏

手）農村救濟ト云フコトガ、數年間ニ亘リマス、シテ朝野ヲ舉ゲテ叫バレテ居ルニ拘ラズ、森林リマス、然ルニ山林局ノ統計ニ依リマスレバ、森林被害總額ハ千七百万圓、約四%ニ過ギナイ、ノデアリマシテ、而モ火災ニ因ルモノノ如キハ頗ル少ク、二百三十萬圓ニ過ギナイノデアリマス、農作物被害ハ五百六十萬戸ノシテ居リマシテ、眞ニ農村ガ救濟セラレナイト云フ此現狀ハ、當ニ私ハ農村救濟ノ手ガ、アルト思フノデアリマス（拍手）

此度ノ農業保險ノ實施ニ付テ見マシテモ、最モ救濟ヲ要スルモノニ伸ビナカッタ所ニアルト思フノデアリマス（拍手）

森林ニ關スルモノヲ先ニ致シマシテ、全勤労農家ニ最モ必要ナ農作物、養蠶等ニ關スル保險ガ後廻シニサレテ居ルノデアリマス、然ルニ農村ニ於ケル所有者關係ヲ調べテ見マスト、森林ノ所有者ヲ見ルニ、ソレ等ノ所有者ハ主トシテ地主デアリ、或ハ其地方ノ比較的富裕ナ階級ニ屬スル者デアリマス、斯様ナ者ノ爲ニ先づ保険ヲ行ツテ、農作物保險ノ實施ヲ後回シニスルト云フコトハ、此處ニモ亦ノ最モ多イ勤労農民ニ關スル保險ヲ後ニ致シテ居ルノデアリマシテ、農村救濟ノ立場カラ見ルトキ、何故ニ斯様ナ方法ヲ執ルノカト云フコトノ理解ニ苦シムノデアリマス、尙ホ森林保險ニ付キマシテモ、其様ナ著書ヲ五十年以前古本屋ニ行ツテモ、中々見付カリマセヌケレドモ、時々古本市等ニ於テ、蟲ノ喰タノカト云フコトノ理解ニ苦シムノデアリマス、尙ホ森林保險ニ付キマシテハ、民間會議ニ於キマシテモ、既ニ之ヲ行ツテ居ル位デアリマシテ、農作物ニ付テ行ハレテ居ナス、尙ホ森林保險ニ付キマシテモ、其様ナ著書ヲ五十年以前ニ著シマシテ、社會ニ對シ農業保險ニ關スル注意ヲ喚起シ、當局ヲシテ之ヲ行ハシムベク鞭撻サレテ居タノデアリマス、又明治三十二年ニ施行サレマシタ舊商法ノ中ニ云云條文ガ明記シテアリマシテ、斯ル保險ニ對スル途ガ開カレテ居タノデアリマス、又議會ニ於キマシテハ、是ハ諸君ノ御承知ノ如ク、第四十六議會ニ齋藤宇一郎氏



アルト考へテ居リマス、第二ハ、農作物保険ヲ提出セナカツタノハドウカ、是ハ數回ニ瓦リマシテ、此議會ニ於テ私ハ申上ゲタ苦デアリマス、即チ農作物保険ニ付キマシテハ、マダ考究シナケレバナラヌ點ガ多々残ツテ居ルノデアリマス、例ヘバ黒田君ハ昭和九年、十年ノ冷害、或ハアノ風水害ノ場合ニ、前ニアツク保険法ガ實施サレテ居ツクナラバ、農村ハ助カツクヤナイカト云フ御話デアリマスガ、是ハ能ク法案ノ内容ヲ御考ニナレバ分リマス、冷害ナドモ入ツテ居ラヌノデアリマス、ソレカラア、云フ程度ノ災害ノ場合ニハ保険ノ範圍外ニナッテ居ルノデアリマス、左様ナ點ガ餘程モウ少シ考ヘテ見ナケレバナラヌ點アルノデアリマシテ、私共ハ決シテ之ヲ遷延シテ居る譯デヤアアリマセス、唯前回私ガ農林省ニ在任ノ當時ニ、何故アレヲ解決セナカツタカト云フ事情ハ、是ハ先般申上ゲマシタヤウニ、アノ案ニ依リマシテモ、例ヘバ農作物ニ付テ反當リノ保険料ガ一圓五十錢トナッテ居リマス、此半額ヲ國ガ補助シテ、半額ハ耕作者ガ負擔ヲスル、斯ウ云フ立前ニナッテ居リマスガ、反當リ七十五錢ノ負擔ト云フコトガ、アノ當時ノ農村悲況ノ際ニ、果シテ負擔ニ堪ヘ得ルカドウカト云フコトヲ、私ハ深ク懸念ヲ致シマシタカラ、隨テアノ問題ノ解決ヲ達ラシテ置イタ譯デアリマスガ、尙ホ只今申上ゲマスヤウニ、案ノ内容ニ付テハ相當マダ研究セナケレバナラスト思フ、現ニ黒田君御自身スラ、本當ニ御研究ガマダ届イテ居ラヌヤウニ御察シラスルノデアリマス、ソレズ森林保険ヨリモ農作物保険ノ方が重要デアルカラト云フ御意見デアリマシタガ、無論重要ノ程度ハ、農作

物ノ方ガ關係ガ大キイト云フコトハ、モウ仰セマデモナイコトデアリマス、併ナガラ物ハ一方ガ大キイカラト云ツテ、大キイモノガ出來ルマデハ、ヨリ小サイモノヲ爲スペカラズト云フ考ヘ方ハ、私ハイカヌト思フ、總テノ行政ハヤハリ片付ケ得ルモノカラ片付ケテ行ク、是ハ行政ノ實際ニ於テハ守ツテ行カナケレバナラヌ點アルノデアリマス、其點ハドウカ一ツ御説承ヲ願ヒタイト思ヒマス（拍手）○**黑田壽男君** 農林大臣ノ御見解ハ、私ノ質問ノ趣旨ヲ諒解サレテ居ナイ點ガ多々アレヤウニ思フノデアリマスガ、私ハ總テヲ委員會ニ讓リマシテ、今日ハ是デ質問ヲ打ちルコトニ致シマス

○副議長（岡田忠彦君） 石坂繁君  
〔石坂繁君登壇〕

○石坂繁君 諸君、今回御提案ニ相成シテ居リマスル漁船保險法案及ビ森林火災國營保險法案ハ、其内容ニ付キマシテハ、意見皆無ト申上ゲル譯デハナイノデアリマスケレドモ、兎ニ角全面的ニ廣イ意味ニ於テ、農業關係ノ保険制度確立ヲ長イ間要望致シテ居ル私共ト致シマシテハ、農林當局ガ免ニ角此法案ヲ今期議會ニ御提出ニ相成リマシクコトニ付キマシテハ、私共敬意ヲ表スルモノデアリマス、而シテ私ハ此法案ニ關聯致シマシテ、極メテ簡單ニ一二ノ問題ニ付テ御質疑ヲ致シタイト存ズルノデアリマス

時間ノ關係モアリマスノデ、極メテ簡單ニ申上ゲタイト存ジマスルガ、第一問題ハ農作物保險法ノ問題デアリマス、此問題ニ付キマシテハ、只今黒田君ガ繕々其必要緊切タル所以ヲ力説セラレマシテ、山崎農林大

臣ノ所見ヲ叩カレタノデアリマス、私モ農業保險ノ必要性、其重大ナル點ヲ認メマス點ニ於キマシテ、全ク黒田君ノ御所論ト同様デアルノデアリマス、元來農業ハ其業務ノ性質上、主トシテ野外ニ於テ營マナケレ然力ノ支配ヲ受ケルコト洵ニ大キナノデアリマス、人間意思ノ支配下ニアル機械生産殆下不可避のナ、殆ド不可抗的ナ各種ノ自然的災害ガ起ツテ參リマシテ、是ガ爲ニ蒙ル所ノ農產物ノ被害ハ、全國ニ非常ニ多イノデアリマス、年々其損害ハ頗ル莫大ノ額ニ上ツテ居ルノデアリマス、大正七年ヨリ昭和四年ニ至ル十二年間ノ水稻ノ風水害ニ因ル平均被害面積ハ二十八万二千餘町歩、其被害額ハ四千五百餘万圓ニ達シテ居ルノ斯様ナル原因ニ因ル所ノ被害面積ハ六万四千餘町歩、其被害額ハ實ニ七百五十七万圓デアリマス、又桑ノ風水害、旱害、雹害等アリマス、是等合計被害

斯様ナル原因ニ因ル所ノ被害面積ハ六万四千餘町歩、其被害額ハ實ニ七百五十七万圓ニ達シテ居ルノデアリマス、是等合計被害金額ハ實ニ年々五千二百餘万圓ノ多額ニ上居ル私共ト致シマシテハ、農林當局ガ免ニ角此法案ヲ今期議會ニ御提出ニ相成リマシクコトニ付キマシテハ、私共敬意ヲ表スルモノデアリマス、而シテ私ハ此法案ニ關聯致シマシテ、極メテ簡單ニ一二ノ問題ニ付テ御質疑ヲ致シタイト存ズルノデアリマス

性、其餘裕ガナイノデアリマス、隨テ黒田君申サレマシタ如クニ、斯ノ如キ災害ガ起リマス度毎ニ、農民ハ此爲ニ淘ニ寢食ヲ忘レテ、當局ノ補助ヲ求メルト云フヤウナ方法ヲ講ジテ居ツタノデアル、是等灾害ニ對シテ、此被害ニ對スル損失ヲ償フダケノ彈力マシテハ、府縣ニ僅ニ五十萬圓ノ災害救助基金ガアルダケデアリマス、災害ノアル度ニ限ラズ、麥、桑、煙草、私ハ此正月田舎廻リマシテ、此保険制度ニ關シテ御話ヲ致シマスルト云フト、農民ハ非常ニ之ニ共鳴御提案ガ願ヒタイトノデアリマス、而シテ其保険ノ目的デアル所ノ農產物ハ、單ニ水稻ニ限ラズ、麥、桑、煙草、私ハ此正月田舎廻リマシテ、此保険制度ニ成案ヲ得テ、是非トモシテモ此保険制度ノ成案ヲ得テ、是非トモ御提案ガ願ヒタイトノデアリマス、而シテ其保険ノ目的デアル所ノ農產物ハ、單ニ水稻ニ限ラズ、麥、桑、煙草、私ハ此正月田舎廻リマシテ、此保険制度ニ關シテ御話ヲ致シマスルト云フト、農民ハ非常ニ之ニ共鳴御提案ガ願ヒタイトノデアリマス、而シテ其保険ノ目的デアル所ノ農產物ハ、單ニ水稻ニ限ラズ、麥、桑、煙草、私ハ此正月田舎廻リマシテ、此保険制度ニ關シテ御話ヲ致シマスルト云フト、農民ハ非常ニ之ニ共鳴

成案ヲ得テ、今期議會ニ若シ間ニ合ハナカッタナラバ、是非トモ次ノ議會ニハ御提案アランコトヲ要望シテ已マナイノデアリマスルガ、此點ニ關スル黒田君ニ對スル御答辯ハ、私明確ニ聽取ルコトガ出來ナカッタノデアリマス、隨テ重ネテ此保険制度ノ必要ナル所以ヲ力説シテ、山崎農林大臣ニ對シテ、次期帝國議會ニ必ズ御提出アランコトヲ要望スルノデアリマスルガ、其意思アリヤナシヤ、重ネテ此處御伺致ス次第デアリマス。

第一へ、黒田君モ一寸引用サレタヤウニ聞エタノデアリマスルガ、私ハ部落有民野ノ解放ノ問題ニ付テ、當局ノ御所見ヲ御伺致シタイノデアリマス、元來農村生活ハ、現在ノ社會制度ニ於キマシテモ、マダ實物的經濟ノ色彩ガ頗ル濃厚デアリマス、隨テ農家ハ其生活スル所ノ食物、是ハ主トシテ自ラノ耕作ニ依ツテ之ヲ得テ居ルノデアリマス、ソコデ極ク狭イ土地ヲ耕作致シ、金錢的ニ收入ヲ計算致シマスルト云フト、極メテ僅少ナル收入ヲ擧ゲルニ過ギナイ所ノ農家ガ、兎ニ角ニモ辛ウジテ生活ヲヤッテ來ルコトガ出來マシタノハ、是ハ其地方ノ食物ハ自分ノ耕作ニ依ツテ自ラ得ル、サウシテ或ハ炊事用ノ薪炭デアルトカ、或ハ屋根ヲ葺ク所ノ茅、或ハ牛馬ノ飼料デアル所ノ牧草、或ハ田地ノ肥料ニ供スル所ノ草、斯ウ云フヤウナモノヲ、從來其地方ニ在ル所ノ原野ニ部落民ガ共同シテ、所謂入會ヲ致シマシテ、サウシテ其土地ヨリソレ等ノモノヲ採取シテ居ツタノデアリマス、斯ノ如ク自分ノ所有地デナクテモ、其原野ニ部落共存ノ権利ガアリマシタ爲ニ、ソレニ依ツテ得ル所ノモノガ、農家ノ生活ヲ助ケテ參ツテ居ツタノガ、過

去ノ農山村ニ於ケル所ノ下層農民階級ノ生活ノ狀態デアッタノデアリマス、然ルニ明治ノ維新後、是等ノ入會地ニ對スル所ノ所有權ガ確立セラレ、從來自由ニ入會シテ薪炭、柴草ノ採取ヲ爲スコトガ出來タ其地方ノ部落民ハ、所有權ニ對シテ一步モ觸ルルコトノ出来ナイト云フヤウナ、部落ノ生活ニ取ッテ極メテ不自由ナ、不都合ナ狀態ト相成ッタノデアリマス、從來部落民ノ共同ノ採取場所ニアッタノガ、明治政府ノ地方林野ニ對スル政策ノ結果トシテ、次第ニ是等ノ入會地或ハ入會山、立會山、入付場、斯様ナ名稱ヲ以テ呼バレタ所ノモノガ、次第ニ廢止整理サレテ參リマシタ結果ハ、地方山村ノ細民階級ニ對シマシテ、著シク不利益ト不便トヲ與ヘルヤウナ狀態ニ相成ッタノデアリマス、ソコデ斯ウ云フ土地ハ從來長イ間ノ慣習ニ從ウテ、元ノヤウニ部落民ニ解放スル必要ガ出テ參ツテ居ルノデアリマス、私共此點ヲ非常ヲ痛感致シテ居ル、然ルニ政府ノ部落有林野ニ對スル政策ハ、ドウ云フ狀態デアルカト申シマスルト云フト、政府ハ是等ノモノヲ次第ニ整理統一ヲスル方法ヲ長イ間執ツテ居ラレタノデアリマス、即チ町村ニ向ツテハ公有林野造林補助金ヲ交付スル、或ハ又大字其他ノ部落有林野ヲ町村ニ寄附、讓渡ヲサセル方法ニ依ツテ、其所有權ノ讓渡ヲ勸誘シテ、而シテ大正九年以來公有林野官行造林法ト云フヤウナモノマデ政府ニ於テ制定セラレマシテ、段々此入會原野ハ整理サレテ參ツタノデアル、現ニ明年度ノ豫算ヲ見マスルト云フト、此公有林野官行造林

費ト致シマシテ、二百四十一万二千三百六十十七圓ノ計上ヲ見テ居ルヤウデアル、隨テ政府現在ノ御方針ハ、依然トシテ是等ノ部落有ノ原野ヲ整理シ、之ヲ部落民、下層農民ヨリ取上ゲルト云フヤウナ御方針デアル、ヤウニ、私共承知セザルヲ得ナイノデアリマス、併ナガラ今日ノ狀態ニ於テ、斯様ニシテ部落民ノ入會地ヲ取上ゲルコトハ、部落民ハ所有權ニ對シテ一步モ觸ルルコトノデアリマス、從來部落民ノ共同ノ採取場所ニアッタノガ、明治政府ノ地方林野ニ對スル政策ノ結果トシテ、次第ニ是等ノ入會地或ハ入會山、立會山、入付場、斯様ナ名稱ヲ以テ呼バレタ所ノモノガ、次第ニ廢止整理サレテ參リマシタ結果ハ、地方山村ノ細民階級ニ對シマシテ、著シク不利益ト不便トヲ與ヘルヤウナ狀態ニ相成ッタノデアリマス、ソコデ斯ウ云フ土地ハ從來長イ間ノ慣習ニ從ウテ、元ノヤウニ部落民ニ解放スル必要ガ出テ參ツテ居ルノデアリマス、私共此點ヲ非常ヲ痛感致シテ居ル、然ルニ政府ノ部落有林野ニ對スル政策ハ、ドウ云フ狀態デアルカト申シマスルト云フト、政府ハ是等ノモノヲ次第ニ整理統一ヲスル方法ヲ長イ間執ツテ居ラレタノデアリマス、即チ町村ニ向ツテハ公有林野造林補助金ヲ交付スル、或ハ又大字其他ノ部落有林野ヲ町村ニ寄附、讓渡ヲサセル方法ニ依ツテ、其所有權ノ讓渡ヲ勸誘シテ、而シテ大正九年以來公有林野官行造林法ト云フヤウナモノマデ政府ニ於テ制定セラレマシテ、段々此入會原野ハ整理サレテ參ツタノデアル、現ニ明年度ノ豫算ヲ見マスルト云フト、此公有林野官行造林費ト致シマシテ、二百四十一万二千三百六十十七圓ノ計上ヲ見テ居ルヤウデアル、隨テ

○國務大臣(山崎達之輔君) 農業保險ニ付シテ、再三申上ゲマシタヤウニ、來年度ノ豫算ニ調査費三万圓ヲ計上致シテアリマス、案ノ内容ガ先刻來申上ゲルヤウニ、  
○副議長(岡田忠彦君) 御許シ致シマス  
○石坂繁君 農業保險實施ノ必要デアルコトヘ縷々申上ゲタ通リデアリマス、速ニ地方ノ激烈ナル要望ノアルコトニ鑑ミラレマシテ、成案ヲ得ラントコトヲ希望致シマス、尙ホ部落有林野ノ解放ノ問題ハ、從來ノ通り整理統一ノ方法ヲ以テ進マレマスルナラバ、其地方ノ部落民ノ其林野ニ對スル所ノ権利ヲ失ハサシムルコトニナルノデアリマス、私方例トシテ申上ゲマシタノハ、稀ニ見ル一つノ例デアリマスルガ、此事ヲ主トシテ申上ゲタノデハナイノデアリマス、

其地方ノ部落民ニ利益ニナルヤウニスル爲ニハ、整理統一ノ方法ヲ改メナケレバ出來ナイト考ヘマス、是等ノ點モ地方山村部落民ノ生活ノ實情ニ照シマシテ、更ニ再検討サレンコトヲ希望致シマス、是デ私ノ質問ヲ打切りマス

○副議長(岡田忠彦君) 是ニテ質疑へ終局致シマシタ、各案ノ審査ヲ付託スペキ委員ノ選舉ニ付テ御諸リ致シマス

○中山福蔵君 日程第二乃至第五ノ四案ハ、一括シテ政府提出、絲價安定施設法案外一件委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○中山福蔵君 残餘ノ日程ヲ延期シ、本日ハ是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後六時六分散會

衆議院議事速記録第十五號中

正誤

頁段行誤  
三二〇 二 三八 第一讀會ノ續 第一讀會 正誤